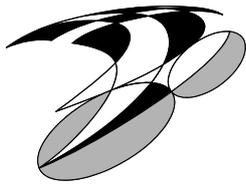




シクリスムエコーNo.82 2001年11月号

JAPAN CUP 2001.....	2
2001年トラック世界選手権.....	4
2001年ロード世界選手権.....	6
連載企画 アンチ・ドーピングについて.....	9
第56回国民体育大会.....	10
2001年MTBアジア選手権.....	12
第32回全日本サイクルサッカー選手権.....	13

2001ロード・トラック・ランキング.....	14
日韓親善学生自転車交歓競技大会.....	16
2001年JCF MTBジャパンシリーズ・ランキング.....	17
C級コーチ講習会/WCC開校.....	18
第2回チャレンジ・ザ・オリンピック.....	18
競技大会結果/飯島規之JOC強化指定選手Bに.....	19
未政実緒「国際競技大会優秀者表彰」連盟の動き.....	20



Japan Cup Cycle Road Race 2001



雨中のスタート

今年のジャパンカップも昨年同様、雨に見舞われてしまった。スタート前に降り出した雨は時間の経過と共に強くなり、2周目のラップタイムが26分15秒(1周は14.1km)と、スローペースのオープニングとなる。本格的にレースが始まったのは3周目の古賀志林道の登りで、新保(愛三工業)がアタックし1回目の山岳賞を奪取する。やや遅れて集団を抜け出した福島康司(ラバナネ)が新保に追い付き、2名は一時、2分30秒までリードを広げた。

5周目、古賀志林道の下りでクレルクとエミルガーのポストスイスチームの2名が集団からアタックし、前を走る2名を吸収する。この時点で新保が脱落して先頭グループは3名に変わった。クレルクは積極的に前を引き、7周目の古賀志林道の登りでチームメイトのエミルガーがアタック、福島はこの動きに反応できずエミルガーの単独での逃げが始まる。この登りではメイン集団にも動きがあり、第2集団が福島を含む5名、更にその後ろにヨーロッパ勢を中心とした10名が第3集団を形成した。

エミルガーは今年のスイスチャンピオンで、レインコートの下にはポストスイスのイエローベースのジャージではなく、赤地に白十字のスイス国旗をあしらったナショナルジャージを着ている。逃げるエミルガーに不安材料が

無いわけではない。7周目に後続集団からクレルクが脱落し、孤独の闘いを強いられているのだ。だがレインコートを捨て去った赤いジャージはその後も快調に逃げ続け、9周目の山岳賞も奪取。このままの逃げ切りもあるかと思われたが、同じ登りで昨年の覇者コドルを擁するランプレ・ダイキン勢が第3集団を引っ張りペースを上げ、前の集団を吸収し先頭のエミルガーに迫る。

そして遂にエミルガーの快進撃に終幕が訪れた。9周目の鶴C.C.の登り(13km地点)でエミルガーの足は止まり、後続がその差を縮める。9周終了のラップこそエミルガーがキープしたものの後続との差は21秒で、古賀志林道へのアプローチでエミルガーは吸収された。

10周目、古賀志林道からの下りでアタックを仕掛けたのは、昨年のチャンピオンのコドルだ。しかし2連覇を狙うコドルであるが後続集団との差はなかなか広がらない。後続10名の集団にはコドルのチームメイトのランプレ勢が2名いるが、他にMTBから転向してきた実力者のエバンス(サエコ)、名門ロット・アデコのプラント、そして何よりコフィディス勢が5名全員残っているのだ(残る1名は国内チーム、リジダDPXのミュノス)。

コドルは射撃場(12km地点)で集団

に30秒の差をつけるが、エミルガーと同様に鶴C.C.の登りで逃げをあきらめた。ここで仕掛けたのがプラントであった。だが後ろをぴったりとマークしていたのがコドルのチームメイト、シモーニで、プラントがコドルを捕らえると一気に前に出てカウンターアタックを仕掛ける。

ファイナルラップ、フィニッシュ地点でのシモーニとプラントの差はわずか2秒、後続はその8秒後だ。勝負所の古賀志林道の登りで、シモーニは再度アタック。フロントをアウターに掛け、一気にプラントとの差を広げる。後ろからはエバンスがプラントに迫る。山頂でシモーニとプラント、エバンスとの差は31秒、更に45秒遅れてセルベリニ(ランプレ・ダイキン)、コフィディス勢は5名が一団となりその15秒後に山頂を通過した。

シモーニは単独で逃げる。ゴールまで残り3kmの地点で、後続との差は38秒に広がった。逆転の可能性として考えられたのは、5名が一団となって走っているコフィディス勢のペースアップであるが、前を追う姿勢は見られなかった。結局シモーニが51秒までリードを広げ、今年のジロ覇者の貫禄を見



ウイナー-SIMONI Gilberto

スタート前、花束を受けるフラナガン(今期で引退)と三浦(10回出場)



せつけゴール。12月に結婚を控えた婚約者の前での優勝を飾った。ランプレ勢はジャパンカップ2連勝。日本勢の最上位は2回目の山岳賞を獲得した福島(康)の12位(国内チームとしてはミュ

でも健闘を見せた。更に活躍してもらいたい、他の女子選手にも一層の奮起を期待したい。

(村田 隆宣)

[競技結果]

リト(151.3km)

- 1 SIMONI Gilberto ITA LAMPRE 4:16:58
- 2 EVANS Cadel AUS SAECO 4:17:49
- 3 BRANDT Christophe BEL LOTTO 4:17:49
- 4 SERPELLINI Marco ITA LAMPRE 4:18:32
- 5 PLANCKAERT Jo BEL COFIDIS 4:18:32
- 6 PEERS Chris BEL COFIDIS 4:18:33
- 7 CLAIN Mederic FRA COFIDIS 4:18:33
- 8 LAMOUR Claude FRA COFIDIS 4:18:37
- 9 FARAZIJN Peter BEL COFIDIS 4:18:37
- 10 CODOL Massimo ITA LAMPRE 4:20:35

アマ男子(66.7km)

- 1 西谷 泰治 広島 日本大学 1:46:52
- 2 中川康二郎 茨城 バイクシステム 1:46:52
- 3 鈴木 太地 神奈川 イキッパ アサガ 1:46:52
- 4 加藤 康則 埼玉 イキッパ アサガ 1:46:52
- 5 西谷 雅史 東京 CWSクラブ 1:46:56
- 6 平井 信昭 兵庫 CLUB ANGLE 1:47:07
- 7 飯田 輝男 茨城 ViteSSe 1:47:12
- 8 小口 直樹 東京 なるしまフルド 1:47:12
- 9 富永 圭多 福岡 村ノマルイ 1:47:14
- 10 流郷 克哉 群馬 日本舗道 1:47:14

女子(42.3km)

- 1 沖 美穂 JPCA チェプロ 1:17:51
- 2 杉村 久美 岩手 ミタ・リノ 1:19:21
- 3 斎藤 綾 秋田 1:20:15
- 4 村中恵美子 東京 医療福祉専門学校 1:20:29
- 5 小野山恵美 愛媛 equipe U R. 1:20:59
- 6 中村 珠藻 奈良 順天堂大学 1:22:02
- 7 林 佐知子 東京 医療福祉専門学校 1:25:22
- 8 小高セツコ 埼玉 L.P.N-東京 1:29:28
- 9 楠 里紗 東京 本ノリビ 1:31:58
- 10 小野 翔子 栃木 作新学院 1:33:01



ノスが11位)で、今回は国内勢にあまり見せ場が無かった。ジャパンカップも回を重ねること10回目、ひとつの節目を迎えた。本場ヨーロッパ勢の走りが見られるこの大会が今後もますます発展することを願うが、そろそろ迎え撃つ国内勢にも何らかの対策を期待したい時期にきているのではない。

なお前日行なわれたアマチュアロードでは、男子の優勝が西谷泰司(日本大学)で、学生勢としてはこのレース初制覇。今後の活躍に期待したい。女子は沖美穂(チェプロ)の優勝でこのレース4連覇を飾った。沖は今年からプロ登録で、今シーズンは海外遠征

前日のフリーランで、一般サイクリストと談笑するTT選手

KEIRIN 00 競輪補助事業

Prominence プロミネンス・ロードフレーム



レースで培った安定した走行感とライダーとの一体感。ナカガワのフルオーダーフレーム。

ナカガワレーシングチーム
チーム員 募集中!!

プロミネンス(完成車250,000円-税別)

一般ロードレース用
標準小売価格145,000円-(税別)

プロミネンスオーバーサイズ

ロードレース用オーバーサイズ仕様
標準小売価格160,000円-(税別)

プロミネンスSL

軽量モデル
標準小売価格163,000円-(税別)

プロミネンスMAX

コロンブスMAXで最高のフレーム
標準小売価格195,000円-(税別)

セミオーダーシステム

スタンダードモデル(10mm刻み)
標準小売価格100,000円-(税別)

その他、シクロクロス・MTB・トラック・
ツインリンクオーダー承ります。

自転車競技者の新しいサプリメント

アタック革命



運動する事によって消費される分岐鎖
アミノ酸を素早く補給!
アタックをかけた時、充分発揮できる
よう設計された自転車競技者のための
サプリメント。 240錠・5,500円

nakagawa
www.nakagawa-cw.co.jp

有限会社 ナカガワサイクルワークス

〒572-0075 大阪府寝屋川市葛原 2-14-34

TEL: 072-829-5431 FAX: 072-829-5524

e-mail: nakagawa-cw@jin.ne.jp

uci 2001年トラック世界選手権



21世紀最初の世界選手権大会は、ベルギー・アントワープのスポーツパレスで33ヶ国、男子184名、女子49名の参加により9月26日から30日まで5日間の日程で開催された。アントワープ・スポーツパレスは屋内競技場のため、雨による競技の順延や変更が無くスケジュールどおりに競技会が行われた。

日本選手チームが9月11日から15日まで伊豆のサイクルスポーツセンターで合宿を行いアントワープへ向けて調整している時に、イスラム過激派によるワールドトレードセンタービルへの飛行機テロがあり、この大会が中止になるのではないかと思われたが、予定どおり行われた。

日本チームは9月21日午後12時30分に日本を出発し、オランダ・アムステルダムを経由して陸路バスでベルギー・アントワープの宿泊地に(現地時間20時30分頃)到着した。日本との時差は7

時間も有り、また長旅ではあったが体調も崩すこと無く、長い1日を終え皆床についた。

22日は午前中に自転車の組み立て、午後は軽くロード・トレーニングを行い旅の疲れを癒した。

23日から25日迄は指定された練習時間の中、スポーツパレスの250m走路に早く慣れるように、選手達は監督・コーチの指示に従い、意欲的にトレーニングを行った。

大会初日(26日)インディビデュアル・パーシュートに飯島規之が8組目に出場し4分37秒929を出したが、予選通過は果たせず12位に終わった。優勝したのはSIMONENKO(UKR)で、3000m過ぎにLEHMANN(GER)を追抜勝ちした。次に1kmタイムトライアルに大森慶一が3番目にスタートし1分05秒503で13位。11番目に荒井崇博が1分07秒470を出し18位に終わった。優勝は

TOURNANT(FRA)が1分02秒571を出し、2位に約1秒の差をつけて力を見せ付けた。

大会2日(27日)オリンピックスプリントに長塚智広・金子貴志・大森慶一が予選でイギリスと対戦し0.7秒の差をつけられたが、46秒565で7位となり1/2ファイナルに進めた。1/2ファイナルではスペインと対戦したが46秒521で7位に終わった。優勝したのはフランス・チーム(GANE・ROUSSEAU・TOURNANT)で強さをみせつけられた(44秒889)。2位はオーストラリア、3位にイギリスが入った。

大会3日(28日)スプリント予選200mタイムトライアルに1番スタートで長塚智広が11秒044を出し25位。6番目に高城信雄がスタート、10秒767を出したが20位。11番目は金子貴志がスタート、10秒861で24位に終り、3人は次に進む事はできなかった。1位のタイムは10秒231のTOURNANTで3位までフランスが独占した。

大会4日(29日)ポイントレースに飯島がチャレンジした。250mの走路を160周する40000m。10周に1回のポイント周回があり、1回目に4位通過で1ポイントを取る。80周を過ぎたころに4人で集団を少しずつ離し、90周目のポイントで3ポイントを取りながらメイングループに追い付き、トップと同ラップの9人に仲間入りした。110周目にも1ポイントを取り後半に期待したが、残り30周頃になると少し疲労がみられ心配になった。最終回のゴールスプリントにチャレンジしたがポイントを取る事は出来なかった。しかし5ポイント



4kmIPの飯島規之



1kmTTの大森慶一



オリンピックスプリントのスタート前

160周完走で8位に食い込むことが出来、良く頑張ったと思う。結果はRISI (SUI)が160周回29ポイントで優勝した。この後スプリントのファイナルが始まりTOURNANTがGANEに勝ち3種目の優勝を決め、ROUSSEAUがFIEDLER (GER) に勝ち3位に入り、表彰台をフランスが独占した。

大会最終日(30日)、日本期待のケイリンが行われた。1時予選1組目に山田裕仁が出場したが、4位で敗者復活戦にまわった。2組目は高城信雄が出場し先行したが、惜しくもゴール前で抜かれ3位になり敗者復活戦へ。4組目最後の巻、伏見俊昭はゴール2周半前から先行したが最終バックで捲られ、6位に終り敗者復活戦にまわった。敗者復活戦は高城が落車、山田はおしくも2位でゴールしたが1/2ファイナルに進めなかつ

た。伏見は先行してゴール前まで行ったがVAN EIJDEN (GER) と接触し、失格落車で全員1/2ファイナルに進むことが出来なかった。伏見は右鎖骨骨折をしてしまった。ケイリンの優勝者は、敗者復活戦から勝ち上がったBAYLEY (AUS) となり、2位GANE、3位FIEDLERで全大会が終了した。

今回の世界選もメダル獲得は成らなかったが、各選手は個々の力を発揮し良く頑張ったと思う。世界との差はまだ有るがしっかりと強化方針を堅め来年のコペンハーゲン、3年後のアテネオリンピックに向けさらなる選手強化をして行かねばならない。

最後に出発から帰国までの13日間選手のサポートをして頂いた臨時コーチの国枝さん、メカニックの藤原さん、マッサージの柳さん、通訳の増田さん、又

関係団体・連盟の皆様には感謝致しまして以上ご報告と致します。

(福田 公生)

[競技結果]

1kmタイムトライアル

1	TOURNANT Arnaud	FRA	1:02.571
2	LAUSBERG Sören	GER	1:03.363
3	KREJNER Grzegorz	POL	1:03.567
13	大森 慶一	JPN	1:05.503
18	荒井 崇博	JPN	1:07.470

スプリント

1	TOURNANT Arnaud	FRA	
2	GANE Laurent	FRA	
3	ROUSSEAU Florian	FRA	
	高城 信雄	JPN	予選敗退
	金子 貴志	JPN	予選敗退
	長塚 智広	JPN	予選敗退

4km個人追抜

1	SYMONEKO Alexandre	UKR	追抜勝
2	LEHMANN Jens	GER	OVT
3	STEINWEG Stefan	GER	4:32.448
12	飯島 規之	JPN	4:37.929

ケイリン

1	BAYLEY Ryan	AUS	11.030
2	GANE Laurent	FRA	
3	FIEDLER Jens	GER	
	高城 信雄	JPN	敗復敗退
	山田 裕二	JPN	敗復敗退
	伏見 俊昭	JPN	敗復敗退

ポイントレース (40km)

1	RISI Bruno	SUI	29 p
2	CURUCHET Juan Esteban	ARG	23 p
3	STOCHER Franz	AUT	17 p
8	飯島 規之	JPN	5 p

オリピックスプリント

1	フランス	44.889
2	オーストラリア	45.211
3	イギリス	45.479
7	日本 (長塚・金子・大森)	46.521

(写真提供: 日本自転車振興会  競輪補助事業)

SHIMANO®

ペダリングセクション重視



SPD
SHIMANO PEDALING DYNAMICS

株式会社シマノ 〒590-8577 堺市老松町3丁目7番地 「お客様相談窓口」電話 0722-43-2829
当社の自転車部門の製品カタログご希望の方は、「カタログ希望」と明記し、300円切手同封の上、
〒590-0944 堺市柳屋町東1-1-1「シマノクラブPRセンター」宛にご郵送下さい。
シマノ自転車製品は、インターネットホームページ <http://cycle.shimano.co.jp> でもご覧になれます。

乗車したまま走りきるコースレアウトがマウンテンバイクレースの世界的な流れになっています。そこで、シマノはよりペダリングを重視したSPDシューズをリリースしました。

高強度カーボンソール搭載
軽量シューズ

SH-M220
¥17,800
標準小売価格(税別)



泥づまりしにくい
シリーズ最軽量ペダル

PD-M858
¥12,600
標準小売価格(税別)





2001年ロード世界選手権



個人ロード

男子ジュニア(121km)

2年連続出場となった別府・土井は、直前合宿として3週間ベルギーで過し、順調な仕上がりでレースに臨むことができた。合宿に参加できなかった親川は、個人ロードレース前のタイムトライアルレースに参加したところで大会の雰囲気になれ、程よい緊張感で本番に出場することができた。

1周目、スタートから2キロほど走った下りS字カーブで、集団落車に巻き込まれた親川が右膝打撲で集団から遅れたものの、2周目に集団に復帰。別府、土井は常に集団の中ほどで走る。

3周目、6名の選手による逃げのレース展開となったところで、土井がイタリアの選手と2名で集団から抜け出し、トップ集団を追う。場内アナウンサーが土井ジャポンを連呼、8年前のノルウェー大会で山田隆博が逃げたとき以来の日本選手のアナウンスであった。

8周目まで続いた6名の逃げも、後続集団の追い上げにより吸収され、振り出しに戻ったところで、激しいアタックの連続。ラスト周回に入り集団がバラバラとなり、メイン集団から遅れた別府は第3集団でゴール、続いて親川、土井と続きゴール。

常に前の集団で走り、途中アタックするなど積極的なレース展開を見せたジュニア達。上位の結果には結びつかなかったものの、来年からのU-23カテゴリーに繋がる走りを見せてくれた。

女子エリート(121km)

7月下旬からヨーロッパでレース活動を続け、確実に上位で走れる実績を残し、世界選手権前にはベルギーで調整してきた沖が会場、楽しみなレースとなった。

スタートから1~2周は余裕で走っていたが、レース展開が激し

くなるにつれ集団の後方に下がり苦しい展開となる。

勝負どころとなった5周目、2kmの上り坂でアタックの連続。集団がバラバラとなり、メイン集団から遅れた沖は辛くも完走。

世界選手権の前にヨーロッパ31レースを経験した沖であったが、最後に世界選手権の厳しさを思い知らされた。

U-23(169.4km)

エントリーした3名のうち、大塚を除く圓谷、佐藤は、世界選手権前にベルギーで1ヶ月合宿を行い、11レースを消化した上で本レースに臨んだ。

U-23はプロへの登竜門として、厳しいレース展開が繰り返されるカテゴリーであるが、1周目にして早くも佐藤が集団から遅れ4周でリタイア。

3周目で遅れた大塚も6周でタイムアウト。2年連続出場の圓谷は、集団の中程に位置し余裕で走っていると思われたが、9周目に入り突然足がケイレンし、集団から一気に遅れ10周でリタイア。

男子エリートに繋がる最も重要なカテゴリーでありながら全員リタイアは、今後の強化策が最も重要な課題となる。

個人TT

女子エリート、U-23、ジュニアに関しては、日本からの時差や、国際レースの経験を考慮し、個人ロードレースに参加する調整として参加。本来の力を発揮できない部分もあったが、本番を前

にして緊張感を和らげ、心肺機能を上げるための調整が充分にできた。

とてもTTとは思えないアップダウンなコースであったが、やはり世界とのレベル差は歴然たるものであった。男子エリートについては、この経験を生かし、来年のアジア大会TTでのメダル獲得に向けての意識向上が図れたと思う。(高橋 松吉)

[競技結果]

男子エリート・タイムトライアル(38.7km)

1	ULLRICH Jan	GER	51:49.99
2	MILLAR David	GBR	51:56.29
3	BOTERO ECHEVERRY Santiago	COL	52:01.72
51	岡崎 和也	JPN	1:00:22.49

女子エリート・タイムトライアル(19.2km)

1	LONGO CIPRELLI Jeannie	FRA	29:08.55
2	BRANDLI Nicole	SUI	29:08.96
3	RUANO SANCHON Teodora	ESP	29:53.16
34	沖 美穂	JPN	33:44.56

男子U23・タイムトライアル(33.7km)

1	PATE Danny	USA	46:29.35
2	LANG Sebastian	GER	47:07.70
3	PERRY James	RSA	47:08.70
48	圓谷 崇	JPN	54:17.78
49	佐藤 朋也	JPN	55:25.69

男子ジュニア・タイムトライアル(19.2km)

1	VAN DEN BROECK Jurgen	BEL	27:28.30
2	KVACHUK Oleksandr	UKR	27:28.74
3	SCHEUNEMAN Niels	NED	27:29.08
43	別府 史之	JPN	30:13.57
52	親川 泰典	JPN	30:36.41

男子エリート・ロードレース(251.4km)

1	FREIRE GOMEZ Oscar	ESP	6:07:21
2	BETTINI Paolo	ITA	6:07:21
3	HAUPTMAN Andrej	SLO	6:07:21

女子エリート・ロードレース(121km)

1	POLIKEVICIUTE Rasa	LTU	3:12:05
2	PUCINSKAITE Edita	LTU	3:12:05
3	LONGO-CIPRELLI Jeannie	FRA	3:12:05
57	沖 美穂	JPN	3:29:28

男子U23・ロードレース(169.4km)

1	POPOVYCH Yaroslav	UKR	4:02:43
2	GARUSO Giampaolo	ITA	4:03:00
3	GRYSCHENKO Ruslan	UKR	4:04:15
	大塚 潤	JPN	DNF
	佐藤 朋也	JPN	DNF
	圓谷 崇	JPN	DNF

男子ジュニア・ロードレース(121km)

1	KVACHUK Oleksandr	UKR	2:58:43
2	SCHEUNEMAN Niels	NED	2:59:50
3	PERGET Mathieu	FRA	2:59:50
69	別府 史之	JPN	3:02:14
77	親川 泰典	JPN	3:10:27
100	土井 雪広	JPN	3:14:55

世界選ロード 強化合宿&レース「選手の想い....」

別府 史之

始めに、この合宿及びレースで思ったことは、場所や天候、コースでそれぞれレースの仕方が変わるということでした。

一応合宿では4レース参加しましたが、それぞれ違ったものでした。まず1レース目は、オランダでのクリテリウム(石畳)でした。ここに着いて3日目でろくに練習もしていなかったし、ダメもとで身体を動かしてみることになりました。

ここでのレースで感じたのは、道が石畳のため、地面が滑ることと、ガタガタしているので普通の走り方ではダメだということと、走る溝(ライン)があることでした。そこを走らないと無駄に体力を削ることになり、他の選手も競ってその道を通っていました。更にこの日は、雨が降っておりコーナーはみなさん慎重に減速してすんなり周っていました。

強い選手は、レース終盤になると足をためるため前を引かなくなるのです。そうとは知らず、前で元気がちな選手たちがみんなローテーションしているのだが、強い選手は一番後ろで苦しそうな表情を見せ少し集団から離れる素振りをして、その間、集団に引いてもらいローテーションに加わらないで、出来るだけ足を使わないという戦法なのでしょう。この方法を1位と2位の選手は使っていました。

もっとも2位の選手は始めから1人でガンガン逃げていたのも、もう力は残っていないだろうと自分は思って引いてあげたのが甘かった!!相手の思うツボにはまってしまう最後の最後で行かれてしまうかなり悔しい思いをしました。結局足をためていればとは思いますが、このレースはそこまで大切なレースじゃないし、ガンガン行って勝つくらいにならないと話にならないし、自分は常に攻める走りをしながら強くなろうとこのレースで感じました。

このレース結果は四位でした。

第2レース目

ドイツに移動。天候雨、気温寒いこのレースは、クリテリウムで1ヶ所なだらかな丘と急なカーブがあった。路面は雨のため少し滑るが、前のレースの石畳ほどではない。レースがスタートし、いきなり集団のスピードが上がリ、自分も激しく動いて展開を作ろうとしていたが、集団が急に動きを止めた。とオランダの選手がアタックしてみるみると離れていき逃げが決まりそうだった。

そこで次の周回でヤバイと思い一人で渾身の力で追った。

半周くらいすると逃げていた選手に追いついた。

しばらく2人のローテーションで走っていた。このまま追いつかれることもなくかなりのスピードで逃げた。この時、相手とのコミュニケーションもあった。

それで最終回のゴール手前で先頭を相手に

引かせ、自分はその後に付けていた。こうなったら負けな自信があった。で、ゴール50m手前で抜き去りそのまま勝ちをおさめた。

このレースで勝てたがあまり嬉しくなかった。何故かという自分勝てるということでは、あまりレベルが高くないということでもっと高いレベルで戦いたかったからです。

結果は、優勝。

第3レース目

ベルギーに移動。天候雨。気温寒いロードレース。この日の朝食は意識的にあまり食べないで補給食に重点をおくということでスタートした。背中に命綱の補給食を入れ準備万端!!しばらくしてから自分は逃げたかったのでチャンスを見ていた。集団のペースが落ちたときにアタックをかけた。すると1人の選手が加わってついてきた。二人でローテーションしながらレースの半分以上逃げつづけたがここで後ろの集団に吸収された。

なぜなら自分は、だんだん力がなくなっていき、補給食も底をついていた。大変なことになってしまった。どんどん力が衰えていき、ここではじめてハンガ-ノックになっていることに気づいたが、もう後の祭だった。こうしてあっけなくチギレてしまいここでのレースは終わりました。

今回のレースで学んだことは朝食はしっかり食べる。補給食はあくまでも補給でしかなかった。

結果は10位でした。

第4レース目

天候くもり。気温涼しい。昨日に続き土日のレース。比較的起伏があり、最初に上ってそのあと急に下る。しばらく平坦を走り、その後急激に上る。

この日で合宿のレースが最後だったので

今までのレースの総決算をここで試すことにした。まず1日目の足をためること、二日目の逃げをきめること。最後は昨日のことで朝食をしっかり食べることにこの全てを頭の中に叩きこんでレースに臨んだ。

はじめからペースが上がるも冷静に動いた。しばらくすると集団が二つに分かれ自分は前にいたが、動くにはまだ早かったため様子を見ていた。

集団の中に強い選手がいなくて捜しては見したが、強そうな選手は見当たらなかった。ラスト4周目の最後の上りのところで後ろの集団が追いついてきた、この流れだとマズイと思いここで耐え切れずアタックした。

そこでさすが2名の選手がついて来たので利用してやろう!と思いながら三人で逃げた。しかしこの2人は、まったくローテーションをしてくれない!!2人の顔は、かなり苦しい表情だ。先頭が引けないのなら自分で引くしかなかったからだ。引かないと後ろの集団が迫ってくるからだ。頑張ってるこまでやった意味がなくなるので引き続けてしまった。

結果、ゴール寸前で2人に抜かれてしまい、オランダでのヒトコマになってしまった。はあーっ。勝てたレースだったけれど。まんまと人がイイ人をやってしまった。利用するはずが逆に利用されてしまった。....

やはり自転車競技は、最後に勝つためには、頭が切れなくてはいけないのがよくわかった。力がある程度あってもダメなのだ。そこが最大の面白みだと僕は思います。

結果は、3位でした。反省点は外国人たちの考えが理解できるようにしたい。これがこれからの課題です。

これは合宿レースのレポートでした。



別府 史之



土井 雪広

今回は昨年に続き、自分を選考していたきありがとうございました。また今年は海外強化合宿までやらせてもらい、世界選手権は緊張せずに自分の納得のいく走りことができました。結果的に見たら後から数えた方がはやいのですが、自分がイメージしていた走りができたのでよかったと思っています。また海外強化合宿の方では、オランダの良いホテルに滞在しながら、四つのレースに参加しました。毎日の練習の中で感じた事はいっぱいあるんですけど、とりあえず僕が一番いやだったのが朝の食事の時で、毎日、パン、ハム、チーズ、コーンフレーク、ゆで玉子、オレンジジュースで、朝、店の人に言われる言葉も、毎日、「コーヒーと紅茶どっちがいいですか？」っていわれて、本当に頭がおかしくなるところでした。

また、レースや練習は、コースに石量が多くて、走った事もない道路状況で、最初はこわくてまともに走れませんでした。徐々に慣れてきたので大丈夫でした。しかしオランダに着いて2日後にあったレースは、石量で雨。なにも走っていないうちから、かなりすべりそう。しかもスピードも速く、着いて3日ではやくも泣きそうになった。でも、日を重ねるにつれて道にもなれ、2回目のレースはドイツでのクリテで、石量かと思いきや道はきれいで、安心して走って結果は3位。別府君は1位だったけど、第2グループでのスプリントで1番でゴールできたので良かった。そして3回目のレースはベルギーのロードレースで、最初から別府が逃げて賞金を取りまくっていたので、自分も負けずに前で走るのを目標に走ったらなんとか完走し、別府に負けられないぐらいの賞金を獲得したので、賞金だけを考えたら良かったと思います。

4回目のレースは久々の山で、そんなにきつい山じゃなかったんですけど、スピードが速かったのでとてもきつかった。でもこの速いレースのなか積極的に前で走れたので、自分的には良かったです。僕はこの日でいただいた海外強化合宿の日程は終了して、気分的にはポルトガル・リスボンでの世界選手権

なんです。この時戦争が始まり、ポルトガルまでの飛行機は大丈夫かな？とか、世界選が終わってからの日本までの飛行機は大丈夫かな？とか、そっちの事で頭がいっぱいになって、もう心も体もいっぱい状態の状態で無事ポルトガルへ。到着後、自転車置き場でローラーをしてこの日の夜はポルトガルの中華を食べて元気いっぱい、調子万全で就寝した。次の日の朝、朝食をとり10時から練習へ。練習コースはめっちゃくちゃ山ばかりで、オランダで山を乗っていなかった事もあって、かなり苦しかった。この時、レースのコースは坂がきつくて速いのだろうなあと、思って、ポルトガルにきて初めて泣きそうになった。そしてレースのコースを次の日に走ってみて、かなり苦しいコースだと思った。しかし、2日後のレースではすこし緊張しながらスタートし、1周目から4周目まではほとんど先頭より20~30番ぐらいの位置をキープし、坂では先頭か、さがっても10番ぐらいで、かなりいい感じで走っていた。5周目の最後の坂で、ためにアタックして少しだけ1人で逃げて、この少しの瞬間はとても楽しく、自転車って楽しいなあと感じた。その後ゴール前でつかまり、6周目、7周目は、我慢して走ったが、8周目の1つ目の登りで前がつかまりそれにつっこんで、ふみこんだが足がつって、ちぎれている時に親川がきて、これにもついていけずマイペースで10周走りきった。完走できて本当に良かった！って感じてました。レース後は、ぜんぜん悔いは残らなかった。昨年の世界選は何もできずに、世界選を感じる前に終わった。しかし、今年の世界選は自分の走りができ、前で走っているイタリア、フランス、スペインなどのヨーロッパでバリバリに走っている奴の顔を見れたし、奴らがどういう走りをしているかもわかった。これを来年にいかして、U23でも出場できるように頑張りたい。今回は日本自転車競技連盟の人達のおかげで、すばらしい遠征ができた事に感謝申し上げます。また来年もよろしくお願いします。

親川 泰典

10月5日、成田空港に来た私は、世界選手権に出られる喜びと、その反面、こんな私がこんな大きな大会に出て貢献できるのだろうかとか色々考えながら、ポルトガルへ向かう経由地オランダ・アムステルダムへと飛び立った。飛行機内での私は、日本を立つ時の考えはほとんどなくなり、ポルトガルの地で走れる、世界選手権に出られる、という考えが強かった。

私達はオランダ・アムステルダムで他の選手と合流、一泊し、ポルトガルへ向かった。ポルトガルに着いた私は、一時大会の事を忘れ、周りの風景にひたっていました。ポルトガルには、石畳やロータリーといった日本にはない交通形式があり、海外では日本と違い右側通行なので、交差点やロータリーに入ると海外走行の経験が少ないため、頭が混乱した時もありましたが徐々に慣れていき、大会前にはコースの立地やカーブの大きさなどを覚えていきました。

そして個人タイムトライアルの日、私はあまり緊張してなく、思っていたよりも周りの人々が小さく見え、「今日はいけるぞ。」と心の中で叫んでいましたが、いざレースを終えてみると結果はあまり良くないものでした。スタッフの皆さんは励ましてくれたりしたんですが、やはり世界とはあまりにも広く遠いものでした。

そして1日おいて次の日、そんな気持ちの中、ロードレースが始まってしまいました。でもその気持ちを反対に、自分は「ここまでいろんな人の力をかりてここまで来たんだ。世界のレベルまではほど遠いけど、日本の代表として最低な結果を出したくない。」と思い完走する事はできたものの、世界のレベルまでは遠く、最後まで集団の中にいる事が出来ませんでした。世界は広く遠いと思ってはいましたが、これほど遠いものだったとは思っていません。今後の練習に気合が入ります。

「オープン・デ・ケイリン2001」
選手団の派遣について

ツール・ド・フランス社主催の「オープン・デ・ケイリン2001」が今年11月15日フランス・ポルドーで「オープン・デ・ナシオン2001」の大会初日に行われる。トラック世界選手権において伏見俊昭選手が負傷したため、代って馬淵紀明選手が出場することとなった。

大会名 オープン・デ・ケイリン2001
開催場所 フランス・ポルドー
開催期間 平成13年11月15日
派遣期間 平成13年11月12日~17日
代表選手団
監督 穴田 勝彦 (JPCA)
コーチ 渋谷 晃一 (JPCA)
メニク 藤原富美男 (連強強化スタッフ)
選手 山田裕二・内林久徳
馬淵紀明・小嶋敬二
太田真一

連載企画
第25回

アンチ・ド - ピングについて

薬の知識(16)

- 使用可能な医薬品(病原微生物に対する薬剤) -

新津谷 真人 ニイツマ マサト

昭和60年 北里大学医学部卒業
循環器内科研修生を経て平成7年より現職の北里大学医学部、衛生学・公衆衛生学講師
(財)日本体育協会・スポーツドクター
(財)日本自転車競技連盟・アンチド-ピング委員

笠師 久美子 カサシクミコ

昭和56年 北海道薬科大学薬学部薬学科卒業
北海道大学歯学部附属病院薬剤部
平成7・8年 日本水泳連盟医学委員
平成10年よりJCFアンチド-ピング活動をサポート

米本 吉之 ヨネモト ヨシユキ

昭和57年 昭和薬科大学卒業
(株)日本調剤勤務
JCF3級審判、C級スポーツ指導員

分類	商品名(製薬会社名)	薬剤名
19. 抗菌薬	アクロマイシンV(ワイスレダリ-)	塩酸テトラサイクリン
	ウロナミン(住友)	マンデル酸ヘキサミン
	エリスロシン(大日本)	エリスロマイシン
	L-ケフレックス(塩野義)	セファレキシン
	ケフト-ル(塩野義)	セファマンド-ルナトリウム
	ケフラ-ル(塩野義)	セファクロル
	ゲンタシン(塩野義)	硫酸ゲンタマイシン
	サワシリン(藤沢)	アモキシシリン
	セファメジン(藤沢)	セファゾリンナトリウム
	タリビッド(第一)	オフロキサシン
	トブラシン(塩野義)	トブラマイシン
	バイシリンG(万有)	ベンジルペニシリンベンザチン
	バクタ(塩野義)	スルファメトキサゾ-ル・トリメトプリム
	ピクシリン(明治)	アンピシリン
	ピクシリンS(明治製薬)	アンピシリン・クロキサシンナトリウム
	ピブラマイシン(ファイザ-)	塩酸ドキシサイクリン
	フラジオ(日本化薬)	硫酸ネオマイシン(硫酸フラジオマイシン)
	ペングロ-ブ(ウェルファイド)	塩酸パカンピシリン
	ホスミシン(明治)	ホスホマイシンカルシウム
	ミノマイシン(ワイスレダリ-)	塩酸ミノサイクリン
硫酸アミカシン(万有)	硫酸アミカシン	
硫酸ポリミキシンB(ファイザ-)	硫酸ポリミキシンB	
20. 抗真菌薬・抗原虫薬	アンコチル(ロシュ)	フルシトシン
	エンペシド(パイエル)	クロトリマゾ-ル
	ハイアラ-ジン(山之内)	トルナフタ-ト
	ピマフシン(鳥居)	ピマリシン
	ファンギゾン(プリストル)	アムホテリシンB
	フルピスタチンUF(塩野義)	グリセオフルビン
	フロリ-ド(持田)	ミコナゾ-ル
	マイコスタチン(プリストル)	ナイスタチン

治療薬でもド - ピングになります

治療の目的で医師が処方した薬でも、禁止薬物が含まれている場合には全てド - ピングになります。

平成13年3月に実施した指導者研修会のアンケート調査では、71.1%の指導者が誤った回答をしていました。原則として、禁止薬物を含んでいる薬は、どのような理由があっても使用することができません。診断書を提出した場合に、局所使用に限って使用が許可される薬もありますが(ある特定状況下での禁止薬物。詳しくはシクリスムエコー - No.75を参照)、これは例外的な薬だと考えて下さい。

理解が不十分な競技規則

薬物検査室からの途中退室は陽性となる。
出頭までの制限時間は原則30分である。
薬物検査を拒否した場合は陽性とみなす。
表彰式を薬物検査より優先する。
薬物検査室への出頭が遅れると陽性となる。

第56回国民体育大会



成年ロードレース

『新世紀 みやぎ国体』をキャッチフレーズに、21世紀最初の国体が宮城県において開催された。ロード・レースは、桶谷町を発着点とし8町に及び一周75kmの特設コースで開催され、トラック・レースは、近代設備を備えた大和町の宮城県自転車競技場で開催された。

『ロード・レース』

レース当日は秋晴れのもと、地元の熱烈な声援を受け選手も気分良く走れたであろう。少年は特設コースを一周半する108.9kmのコースで91名の選手により行なわれた。レースは10名前後の選手が、集団をリードする形で一周目を終えた。レースが動いたのはラスト11km地点付近で、集団落車がありそこから3名の選手【天沼(北海道)、大野(青森)、小林(福島)】が抜け出し、ラスト10km地点では集団を40秒程リードしたが、ラスト7km地点で30秒差まで迫られゴール勝負かと思われた。しかし再びスパートしてリードを広げたが、天沼がついて行けず脱落し2名の争いとなった。最後は大野が2位の小林に15秒の差をつけて逃げ切り、21世紀最初の国体の優勝者となった。成年は特設コースを2周する145.4kmで行われた。レースは、大集団の中から何度かアタックを掛けては吸収されるという展開が繰り返され、残り10kmになっても、集団から抜け出したとは言いがたいリードのままにレースは進む。しかし残り7km辺りで3名【盛(茨城)、綾部(神奈川)、小嶋(京都)】が抜け出し、後続に25秒のリードをつける。が残り

5kmで15秒のタイム差まで追い上げられてしまう。しかし盛が後続を引き離し、2位にそのまま15秒の差を付けてゴールを駆け抜けた。熱心な声援が最後まで続き会場は大いに盛り上がり、レースを終える事ができた。

『トラック・レース』

《1kmタイム・トライアル》

最初の決勝種目となる少年の部では、記録が今一つ伸びずに、1分10秒を切る選手が現れないまま終盤を迎える。インターハイで優勝した屋良(沖縄)が二組を残してトップに立つが、最終組で走った臼井(岐阜)が、都道府県対抗では敗れている同走の中田(富山)を破り栄冠に輝いた。成年の部では大本命と見られていた大森(北海道)のエントリーが無く、岡本(愛媛)と篠原(群馬)の最終組対決での決着かと思われていたが、6組前で走った藤田(埼玉)の記録を破る者が出現せず優勝が決まった。

《エリミネーション・レース》

選抜大会、インターハイとこの種目を2冠で迎えた白水(福岡)は順調に決勝に進んだが、インターハイ2位の島田(京都)は予選落ちとなる波乱含みの決勝レース。終盤まで安定した走りでも白水に食らいついたのは、地元清水(宮城)であった。大応援に後押しされたが最後は力尽きた感であった。そして白水の三冠達成となった。

《ケイリン》

今シーズン安定した走りでも上位入賞を続ける吉田(岡山)、塩原(広島)が、順当に決勝が上がってきた。全日本アマチュア選手権を制した小野(兵庫)は、残念ながら2回戦で敗退してしまう。決勝は、4番手をキープしていた吉田が、ベルと同時にスパートを掛けた時、ピタリと追走した塩原が最後にまくり念願の国体初優勝を遂げた。

《4km速度競走》

少年決勝は、中盤から逃げた鈴木(大分)と鈴木を追走した吉田(青森)と二人の争いになったが、最後は鈴木が逃げ切り優勝した。成年決勝は、4周目から逃げたロード優勝者の盛(茨城)に楠本(愛知)が続き、中盤は二人で先頭責任を重ねたが、最終的には岡田(新潟)を入れた先頭責任完了者三人の争いとなり、着順で上回った楠本の優勝となった。

《ポイント・レース》

少年決勝はインターハイを制している片山(岡山)予選を一位通過した地元宮城の身崎が注目されたが、中盤より仕掛けた池田(奈良)が、3回連続トップを取ってリードし、その後追い上げられるが最後のゴールポイントも一着を取り逃げ切った。成年決勝は終盤までもつれ、最終回ポイントを残し、西谷(広島)、大矢(奈良)が19点、三上(青森)、岡部(富山)が17点と誰が勝つのか予想できないレースだったが、最終回ポイントで一位を獲得した西谷が栄冠に輝いた。

《スプリント》

少年決勝は、選抜大会を制し予選一位で決勝に進んだ齋藤(静岡)と、インターハイ三位の北津留(福岡)の顔合わせとなった。両者譲らず3回戦までもつれたが、3戦目を北津留が勝ち栄冠を手にした。成年は、9月現在エリート・スプリントランキング一位の植木(神奈川)が1/4決勝で敗れる波乱があった。決勝は予選タイム一位で、昨年・一作年と、この大会の少年の部で優勝している石橋(静岡)と、予選タイム2位の湯原(長野)の対決となった。接戦を期待したが、石橋があっさり2本とも制し、今大会すべてストレート勝利での優勝となった。

《4km団体追抜競走》

少年は予選一位の青森と、二位の岐阜が順当に勝ち上がり、決勝での顔合わせとなった。3kmまでは僅かに青森がリードしたが、そこから1kmT.T.で優勝している臼井の頑張りにより岐阜が逆転し、そのまま差を広げての優勝となった。成年は予選一位の福島と、二位の群馬が共に準決勝で破れ、決勝は青森と広島の戦いとなった。レースは終始広島がリードを守り、青森を破って

見事三連覇を達成した。

総合成績では、青森県が第34回大会以来久しぶりに優勝を飾り、2位に福島県と東北勢が入った。

今国体は地元での民泊による協力のもとに行なわれ、それが選手にとって暖かい声援にもなり大会を盛り上げた事は、紛れも無い事実であった。本大会が、大会に携わった皆さんのご協力により成功裡に終わった事に、心から敬意と感謝を申し上げ、御礼にかえさせていただきます。 (早坂 和弘)

[競技結果]

成年男子個人ロードレース (145.4km)

- 1 盛 一大 茨城 日本大学 3:34:17.90
- 2 日置 大介 兵庫 NHK神戸 3:34:32.89
- 3 小嶋 洋介 京都 京都大学 3:34:33.08
- 4 西谷 泰治 広島 日本大学 3:34:43.98
- 5 班目真紀夫 福島 東白川農教 3:34:44.44
- 6 高橋 秀作 秋田 3:34:44.66
- 7 岡部 英人 富山 高岡養護教 3:34:44.69
- 8 広瀬 敏 石川 日本舗道 3:34:44.79
- 9 辻浦 圭一 奈良 多摩久呂伝 3:34:44.84
- 10 明珍多雄 福島 日本大学 3:34:44.95

少年男子個人ロードレース (108.9km)

- 1 大野 涼太 青森 八戸工高 2:51:31.94
- 2 小林 彰夫 福島 東白川農 2:51:46.87
- 3 天沼 雅貴 北海道 尚志学園 2:53:08.42
- 4 池田 丈志 奈良 北大和高 2:53:15.06
- 5 佐藤 佑一 岩手 紫波高校 2:53:15.12
- 6 西村 光太 三重 三重高校 2:53:15.28
- 7 辻 龍一 大阪 城東工高 2:53:17.82
- 8 吉次 裕司 山口 多々良学園 2:53:18.29
- 9 小岩 大介 大分 日出陽谷 2:53:24.41
- 10 中島 康晴 福井 科学技術 2:53:25.26

成年男子1kmタイムトライアル

- 1 藤田 竜矢 埼玉 1:07.777
- 2 篠原 忍 群馬 中央大学 1:07.852
- 3 竹沢 浩司 富山 日本大学 1:07.909



- 4 坂本 信也 福島 日本大学 1:08.669
- 5 在本 直樹 岡山 岡山県体協 1:08.966
- 6 安東 宏高 大分 1:09.722

成年男子スプリント

- 1 石橋慎太郎 静岡
- 2 湯原 正行 長野
- 3 明田 春喜 北海道



- 4 井上 雄三 埼玉 イワケレシク
- 5 奥平 充男 京都 ヲツル福知山
- 6 高橋 孝太 秋田

成年男子4km速度競走

- 1 楠本 正昭 愛知 愛三工業
- 2 盛 一大 茨城 日本大学
- 3 岡田 淑行 新潟



- 4 鈴木 信也 富山 北陸ビジネスクラブ
- 5 伊藤 太一 山梨 日本大学
- 6 三好 陽一 愛媛 三光材

成年男子ケイリン

- 1 塩原 正長 広島 丹羽乳業 11.673
- 2 吉田 康則 岡山 三菱化学物流
- 3 石丸 健次 千葉 陸上自衛隊



- 4 矢野 賢児 高知 中四国自転車競技会
- 5 鷹木 真吾 岩手
- 6 皆川 直也 福島

成年男子ホクトレース (30km)

- 1 西谷 泰治 広島 日本大学 29 p
- 2 清水 都貴 鹿児島 鹿屋体育大学 19 p
- 3 大矢 繁 奈良 近畿運輸 19 p



- 4 三上 広 青森 法政大学 17 p
- 5 岡部 英人 富山 高岡養護学校教 17 p
- 6 武藤 大輔 高知 高知中央郵便局 14 p

成年男子4km団体追抜

- 1 広島 吉野・吉井・西谷・福本 4:41.674
- 2 青森 高橋・石田・三上・阿部 4:43.205
- 3 福島 坂本・明珍・班目・近藤 4:43.366



- 4 群馬 篠原・松本・流郷・堀川 4:47.202
- 5 富山 竹沢・栄・岡部・鈴木 4:39.858
- 6 福岡 内山・榎山・中園・秋永 4:40.620

少年男子1kmタイムトライアル

- 1 白井 昌巨 岐阜 岐南工業高 1:09.215
- 2 屋良 朝春 沖縄 北中城高校 1:09.332
- 3 中山 健 新潟 燕工高校 1:09.540



- 4 中田 博之 富山 氷見高校 1:09.635
- 5 橋本 強 愛媛 松山聖陵高 1:09.961
- 6 田畑 英行 岩手 紫波高校 1:10.263

少年男子スプリント

- 1 北津留 翼 福岡 豊国学園高校
- 2 齋藤 友幸 静岡 修善寺工業高校
- 3 青木 亮太 群馬 前橋工業高校



- 4 荻原 尚人 宮城 仙台商業高校
- 5 渡部 幸訓 福島 白河実業高校
- 6 川村 崇 東京 東京電機大学高校

少年男子4km速度競走

- 1 鈴木 栄吉 大分 日出陽谷高 5:06.029
- 2 吉田 公樹 青森 青森山田高校
- 3 望月 純 静岡 静岡北高校



- 4 西村 行貴 熊本 開新高校
- 5 武田 光央 秋田 六郷高校
- 6 桑野 翔 香川 石田高校

少年男子タイムトライアル

- 1 白水 洵 福岡 久留米工大付高校
- 2 清水 恒彦 宮城 仙台商業高校
- 3 安部 龍文 大分 別府商業高校



- 4 河野 要 神奈川 向上高校
- 5 齊藤 義弘 山口 多々良学園高校
- 6 中島 康晴 福井 科学技術高校

少年男子ホクトレース (24km)

- 1 池田 丈志 奈良 北大和高校 30 p
- 2 鷲田 佳史 福井 北陸高校 18 p
- 3 高島 豪 埼玉 小松原高校 15 p



- 4 片山 智晴 岡山 岡山工業高校 13 p
- 5 廣瀬 勝光 群馬 前橋工業高校 11 p
- 6 身崎 琢磨 宮城 東北高校 9 p

少年男子4km団体追抜

- 1 岐阜 白井・吉田・原田・青木 4:40.606
- 2 青森 五日市・大野・坂本・吉田 4:43.148
- 3 秋田 田中・本間・杉山・武田 4:50.885



- 4 大分 柿本・安部・小岩・鈴木 4:51.812
- 5 静岡 片山・望月・水野・望月純 4:42.866
- 6 山形 村形・笹原・三瀧・立里 4:43.311



2001年MTBアジア選手権

4種目で金3銀3銅1を獲得



2001年MTBアジア選手権は、10月23～28日の5日間、韓国のムジュリゾートで開催された。2008年のオリンピックが北京に決定され、アジア諸国の今後の強化が進む中での戦いとなった。

男子ダウンヒル

タイムトライアルによる戦いとなるDHは、テクニック、ペダリング、スタミナのみならず、いかにコースインスペクションでコースを攻略するかが重要なポイントとなる。地元開催の有利は否定できない。韓国チームの50日間に対し日本チームは一日半の限られた日程の中で、男女選手間での密な情報交換により、距離3300m、標高差800m、斜度のきつい下り、大きく左右に振られるレイアウト、50mシングルトラックの登りの攻略を短時間で詰めてゆく。安達靖は今シーズン最後のアタックと決めて、ゴール前の直線を全速のペダリングで入る。フィニッシュ直前のジャンプも必死に制御してフィニッシュするが、後走の韓国Racにトップを奪われる。安達は2位に終わるものの、3位と0.4秒差で4位内嶋、5位竹本と続く。

女子ダウンヒル

今年10月のアメリカでのMTB世界選手権大会ジュニアクラス、ワールドチャンピオン末政実緒が、実力をいかに発揮。増田まみも調整が整っており、ワン、ツーを獲得する。

アジア大陸は広い。カザフスタンなどのロードからの転向選手などが、イレギュラー的に出現したりする。コース

霧雨の中、周回数4周にてスタート。今年のカナダワールドカップ10位、世界選手権16位の戦歴を持つ南部博子は、今年、世界で戦えるトレーニングができたと言う自信を持ち、調整も十分に整っており余裕を見せる。スタート直後の登りから他の選手を引き離しにかけ、パンクなどのトラブルに対処できる2分以上のタイム差を早々とキープする。安定した走行に切り替え、1位でフィニッシュ。ロースターターの中込由香里は、周回を重ねる中、他国の選手を次々とパス、南部に続く2位を獲得する。3位にはベトナムが入る。アジア大会でベトナムが3位内に入るのは初めてだが、ペダリング、下りのテクニック、スタミナ、機材の向上など、強化体制が整ってきたことを感じさせられた。

男子クロスカンントリー

大きな気温差は、選手の体調にも変化をもたらす。かぜの竹谷賢二は、早々に隔離。しかし、今シーズン最後のレースとしての、ナショナルチームの役割を果たすべく、調整に打ち込む。山口、鈴木、色川は、調整も進んでおり、気温、天候の変化の中、体調を崩す前にスタートを切らせた。前日のミーティングでは、南部、中込を交えて、コースの癖、ラインのポイント、フィードでのタイミングなどメカニックとも再チェック。

スタートの前で、エースは決めない。トップ2名をエースとして、ワン、ツーフィニッシュを狙う。3、4番手の選手には、必要とあらばこちらからの指示で働いてもらう。雨の中、6周回から5周回

は、1周6km。スタート直後から800mで100mの標高の登りをはじめ、2つのピークが設定されている。この登りが勝負所と、ミーティング、試走を繰り返す。

女子クロスカンントリー

に変更されたため、余力を残さず1周目の2つのピークでトップに立ち、いかに引き離しにかかるかを指示する。鈴木雷太はスタート30秒前にフロントブレーキのトラブルが発生。スタート直後の登りで山口、色川のサポートを果たしてリタイア。1周目、2つ目のピークで、トップ山口孝則、色川弘樹で3位に24秒の差をつけ通過、逃げにかかる。あまりにも打合せどおりの展開に違和感を感じていたら、2周目に色川がパンク、復帰するも、26位まで後退する。韓国の元ロードチャンピオン、韓国選手2名が山口を追うが、山口は、登り下りで確実に差を広げて1位でフィニッシュ。色川は、復帰後猛チャージを駆けて、最終回2位まで浮上する。フィニッシュ1km手前で再度パンクにみまわれ3位に後退、修理を行っていた3位も危うくなる為そのままフィニッシュに向かうように指示。3位フィニッシュしたものの、バイクマーキングのチェックの中、2度のトラブルに見まわれ悔しがる彼を抱いてねぎらってやるしかなかった。今大会では、各選手とも実力を発揮しよく頑張ってくれた。しかし、アジア各国の選手強化は加速しており、今後、より世界を目指した、選手強化の必要性を痛感する。（監督 山本 康雄）

[競技結果]

XC女子

1	南部 博子	JPN	1:43:46.74
2	中込由香里	JPN	1:44:39.98
3	Nguyen Thi Thanh Huen	VIE	1:51:18.02

XC男子

1	山口 孝徳	JPN	1:36:18.39
2	Lee Jin Ok	KOR	1:40:29.21
3	色川 浩樹	JPN	1:41:44.18
10	竹谷 賢二	JPN	1:46:33.38
	鈴木 雷太	JPN	DNF

DH男子

1	Jung Hyeng Rac	KOR	4:34.448
2	安達 靖	JPN	4:38.676
3	Jang Jun Weon	KOR	4:41.065
4	内嶋 亮	JPN	4:42.619
5	竹本 将史	JPN	4:42.711
7	鍋島 健一	JPN	4:50.697

DH女子

1	末政 実緒	JPN	5:14.312
2	増田 まみ	JPN	5:33.771
3	Risa Suseandy	INA	6:11.473

KEIRIN 競輪補助事業

第32回全日本サイクルサッカー選手権



10月20～21日、大阪府和泉市の桃山学院大学総合体育館で、社会人17、大学生14の31チームが参加して、サイクルサッカー競技では国内最大規模の第32回全日本サイクルサッカー選手権大会が開催された。サイクルサッカーはリーグ戦が基本であるが、参加チームの多い全日本選手権大会では、参加チームを4ブロックに分けた予選トーナメント戦と、予選を勝ち抜いた4チームの決勝リーグ戦が行われた。

予選トーナメント戦の第1ブロックは、昨年優勝し今年の世界選手権大会第2代表の現王園・手島ペア(C.C.Kサンディーズ'K)が、過去優勝4回・準優勝3回の有川を擁する「アンフィニ京葉」を破った児玉・坂本ペア(チーム石川)の挑戦を7対3で退け、決勝リーグに進出した。同第2ブロックは、初優勝をめざす平田・畑ペア(WITH M)が、現役大学教授で優勝経験もある妙中・蓑原ペア(POSPISIL BIKES)を延長PK戦で下した森永・福本ペア(福岡クラブ)を3対1で破って決勝リーグ進出を決めた。同第3ブロックは、過去優勝7回・準優勝2回の山本・松本ペア(NITTSU)が、

8年連続入賞中の芦田・宮川ペア(神戸ラドバルクラブ)の挑戦を2対1で退けて決勝リーグ進出を決めた。同第4ブロックは、今年の世界選手権大会代表の森・都築ペア(チームフジ)が、学生チャンピオンの濱・富士見ペア(第一経済大学)を破った98年世界選手権大会代表の宮本・木下ペア(ピンキーズ大阪)に5対3で競り勝ち、決勝リーグ戦に進んだ。

決勝リーグ戦は、現王園・手島ペアが攻守に圧倒して平田・畑ペアを5対2で下し、続く山本・松本ペア対森・都築ペアの元全日本チャンピオン同士の対戦は、両チームの技術、スピード、プライドが激突した試合となり、ゴールを守る森と攻める松本の素晴らしい攻防には場内から自然と歓声と拍手が起こった。両チームの息詰まる攻防は、終了間際の残り15秒にシュートを決めた森・都築ペアが4対3で今大会1番の熱戦に競り勝った。決勝リーグ戦の初戦を勝利して勢いに乗る現王園・手島ペアは、先の秋季リーグ戦で敗れた山本・松本ペアに6対4で雪辱し、平田・畑ペアを7対3で下した昨年準優勝の森・都築ペアと、世界選手権大会代表チーム同士の優勝を賭けての全勝対決となった。

現王園・手島ペアは手島が絶好調で、攻めの上手い森・都築ペアに攻めるチャンスを与えず、開始直後に2点を先取し、終始リードしたまま7対3で押し切り連覇を

達成。森・都築ペアが昨年に続き準優勝となった。最終戦は山本・松本ペアが平田・畑ペアに5対1で勝ち、山本・松本ペアは昨年に続き3位、平田・畑ペアが4位となった。今年は世界選手権大会に向けて3度の強化合宿を行った結果、森・都築ペア、現王園・手島ペア、山本・松本ペアの強化指定チームは攻守のバリエーションが増え集中力も高まった結果、ミスや無駄な動き無謀な攻めも減り、レベルの高い決勝リーグとなった。

決勝リーグと並行して行われた5～8位決定戦は、5位宮本・木下ペア、6位芦田・宮川ペア、7位森永・福本ペア、8位児玉・坂本ペアになった。

例年同時開催している全日本サイクルフィギュア選手権大会は、主力選手のドイツ練習や学生選手の不参加等で本年は中止とし、男女各1名によるエキシビジョン演技を行った。11月17日～19日に鹿児島県加世田市で開催する世界室内自転車競技選手権大会にはアメリカ、ブラジル、ドイツ、スイス、中国香港、マレーシア等約20の国や地域が参加。日本はサイクルサッカーでBグループ優勝とAグループ昇格、サイクルフィギュアで初入賞を目指して参加しますので御声援をお願いします。(植本 昌之)

[競技結果]

- | | |
|----------|---------------|
| 1 現王園・手島 | C.C.Kサンディーズ'K |
| 2 森・都築 | チームフジ |
| 3 松本・山本 | NITTSU |

KEIRIN
競輪補助事業

MTBアジア選手権 代表選手団の派遣について

大会名	2001年MTBアジア選手権大会		
開催場所	大韓民国 茂朱		
開催期間	平成13年10月26日～28日		
派遣期日	平成13年10月23日～29日		
代表選手団			
監督	山本 康雄	コーチ	杉山 喜一
メカニック	仁木 康夫・白井 三善		
総務	松尾 英治		
選手			
XC男子	山口 孝徳(長野)・竹谷 賢二(千葉)		
	鈴木 雷太(長野)・色川 浩樹(福島)		
XC女子	南部 博子(長野)・中込由香里(神奈川)		
DH男子	鍋島 健一(福岡)・内嶋 亮(東京)		
	安達 靖(大阪)・竹本 将史(埼玉)		
DH女子	末政 実緒(兵庫)・増田 まみ(埼玉)		

世界室内選手権 代表選手団の派遣について

大会名	2001年世界室内自転車競技選手権日本大会		
開催場所	鹿児島県加世田市 加世田運動公園体育館		
開催期間	平成13年11月17日～19日		
派遣期日	平成13年11月11日～20日		
代表選手団			
監督	有川 和英		
コーチ	藤本 保徳		
選手	サイクルサッカー		
	都築 勝巳(東京)・森 茂史(東京)		
	現王園仁志(鹿児島)・手島 敏光(鹿児島)		
	サイクルフィギュア		
	佐浦 裕行(東京)・堀井 和美(滋賀)		
	小野寺千春(ドイツ)		

2001ロード・トラック・ランキング(10月現在)

[ロードレース]

男子エリート・ロードレース

E	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	鈴木 真理	JPCA	E	P	5,203.9
2	狩野 智也	JPCA	E	P	4,468.4
3	橋川 健	JPCA	E	P	4,073.8
4	坂口 博	愛知	E		3,682.0
5	田中 光輝	愛知	E	m	3,322.4
6	田代 恭崇	JPCA	E	P	2,926.3
7	広瀬 敏	石川	E		2,870.5
8	鈴木 新史	JPCA	E	P	2,842.8
9	三浦 恭資	JPCA	E	P	2,766.6
10	今西 尚志	京都	E	m	2,673.3
11	新保 光起	JPCA	E	P	2,572.8
12	山本 雅道	神奈川	E		2,526.3
13	飯島 誠	JPCA	E	P	2,476.6
14	行成 秀人	香川	E		2,432.7
15	中川 康二郎	茨城	E	m	2,357.5
16	岡崎 和也	JPCA	E	P	2,329.2
17	福島 晋一	JPCA	E	P	2,092.6
18	西村 拓也	京都	E		2,065.1
19	小嶋 洋介	京都	E		2,055.7
20	山本 泰裕	大阪	E		2,032.3
21	柿沼 章	栃木	E		1,647.3
22	森 正和	静岡	E		1,598.2
23	渋谷 淳一	JPCA	E	P	1,355.5
24	刈・ブ ヲドリ	北海道	E		1,336.3
25	日置 大介	兵庫	E		1,283.2
26	秋田 謙	愛知	E		1,263.1
27	阿部 良之	JPCA	E	P	1,256.7
28	宮澤 崇史	長野	E		1,247.7
29	大内 薫	大阪	E		1,079.9
30	江下 健太郎	愛知	E		1,079.2
31	流郷 克哉	群馬	E	m	1,054.0
32	栗村 修	JPCA	E	P	1,029.1
33	福島 康司	埼玉	E		1,014.0
34	高橋 祐介	栃木	E		861.0
35	班目 真紀夫	福島	E		833.4
36	矢澤 真幸	京都	E		822.4
37	飯島 規之	JPCA	E	P	800.0
38	高橋 栄光	岩手	E		799.0
39	水谷 壮宏	JPCA	E	P	797.6
40	寛 五郎	長野	E		759.2
41	廣瀬 佳正	JPCA	E	P	757.2
42	岡田 哲也	JPCA	E	P	755.2
43	西山 知宏	福井	E		718.6
44	沼田 雄一	愛知	E	m	710.6
45	田中 泰治	北海道	E		664.8
46	鈴木 太地	神奈川	E		649.4
47	長野 耕治	愛媛	E		628.0
48	西谷 雅史	東京	E	m	605.5
49	大塚 英伸	JPCA	E	P	600.0
50	藤田 将志	三重	E		578.5

男子U23・ロードレース

U	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	西谷 泰治	広島	U		2,231.4
2	大塚 潤	静岡	U		1,986.8
3	清水 実	山梨	U		1,529.0
4	後藤 正志	岐阜	U		1,487.2
5	郡山 善貴	岐阜	U		1,432.7
6	園谷 崇	福島	U		1,358.8
7	別府 匠	神奈川	U		1,301.8
8	辻 貴光	京都	U		1,218.5
9	綾部 勇成	神奈川	U		1,191.3
10	岩本 竜太郎	広島	U		1,078.4
11	盛 一大	茨城	U		1,056.8
12	清水 良行	岡山	U		844.8
13	佐藤 朋也	秋田	U		836.5
14	上田 誠	奈良	U		834.2

U	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
15	普久原 奨	沖縄	U		822.8
16	平井 信昭	兵庫	U		820.8
17	加藤 康則	埼玉	U		746.0
18	渡邊 哲平	京都	U		663.6
19	森 誠二	山形	U		655.5
20	飯田 輝男	茨城	U		637.3
21	出井 光一	千葉	U		632.4
22	清水 都貴	鹿児島	U		585.6
23	櫻川 裕之	千葉	U		578.8
24	宮川 拓也	滋賀	U		550.6
25	加納 朋哉	埼玉	U		536.0
26	小笠原 豪	青森	U		516.8
27	橋本 健	東京都	U		495.7
28	稲田 佳弘	愛知	U		495.6
29	清水 裕輔	埼玉	U		456.5
30	辻浦 圭一	奈良	U		454.2

男子ジュニア・ロードレース

J	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	別府 史之	神奈川	J		1,497.0
2	池田 文志	奈良	J		1,373.8
3	親川 泰典	岩手	J		1,281.0
4	小林 彰夫	福島	J		1,265.8
5	土井 雪広	山形	J		1,011.5
6	松下 善紀	広島	J		951.0
7	天沼 雅貴	北海道	J		895.4
8	高島 豪	埼玉	J		712.0
9	松原 稔明	埼玉	J		692.7
10	白浜 慶一	広島	J		628.6
11	辻 善光	京都	J		613.0
12	隅田 幸助	広島	J		583.2
13	大野 涼太	青森	J		535.0
14	立里 匡道	山形	J	u	522.0
15	櫻井 透	神奈川	J		516.7
16	糸賀 賢司	福島	J		488.0
17	小岩 大介	大分	J		472.5
18	佐藤 佑一	岩手	J		470.0
19	柿本 勇介	大分	J		459.1
20	安里 勝徳	沖縄	J		451.8
21	西牧 仁	福島	J		401.4
22	中島 康晴	福井	J		385.0
23	柏原 剛	京都	J		384.0
24	三瀧 光誠	山形	J		380.0
25	辻 龍一	大阪	J		373.6
26	谷垣 雄基	京都	J		369.0
27	小椋 康寛	岐阜	J		338.6
28	井上 貞志	福岡	J		329.0
29	矢代 慎吾	富山	J		310.4
30	佐々木 正美	青森	J		308.5

女子・ロードレース

F	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	杉村 久美	岩手	E		2,872.5
2	小野山 恵美	愛媛	E		2,742.5
3	木村 春恵	青森	U		2,325.0
4	大塚 恵美	大分	U		2,227.5
5	唐見 実世子	石川	E		2,192.5
6	森本 朱美	鳥取	E		2,102.0
7	中村 珠藻	奈良	U		2,100.0
8	沖 美穂	JPCA	E		2,070.0
9	村中 恵美子	東京	E		1,818.5
10	斎藤 綾	秋田	U		1,598.0
11	前川 康子	奈良	U		1,269.6
12	伊与田 尚加	静岡	E		1,179.0
13	松永 舞美	香川	J		1,154.0
14	小高 セツコ	埼玉	E		989.5
15	塩原 桂子	東京都	E		953.0
16	谷村 祐美子	奈良	J		952.5
17	小谷 翠	愛知	E		922.0
18	許斐 真由子	鹿児島	U		900.5
19	横尾 裕子	山形	J		866.0
20	舟橋 豊子	東京	E		828.2
21	福森 智子	三重	E		802.5

F	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
22	小野 翔子	栃木	J		775.0
23	林 佐知子	東京	E		766.0
24	川添 綾子	高知	U		709.5
25	安里 あゆみ	沖縄	J		668.5
26	横田 景子	埼玉	U		614.2
27	坂井 理沙	青森	U		595.0
28	増子 郁代	東京	E		583.0
29	西 加奈子	千葉	E		580.0
30	南部 博子	長野	E		550.0

[トラックレース]

男子エリート・タイムトライアル

TT	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	篠原 忍	群馬	U		2,432.5
2	岡本 大嗣	愛媛	U		2,384.4
3	大森 慶一	北海道	U		1,840.0
4	在本 直樹	岡山	E		1,614.6
5	竹沢 浩司	富山	U		1,270.9
6	荒井 崇博	JPCA	E	P	872.0
7	藤田 竜矢	埼玉	U		840.0
7	伏見 俊昭	JPCA	E	P	840.0
9	坂本 信也	福島	E		832.0
10	大村 慶二	東京	E		605.2

男子エリート・スプリント

SP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	湯原 正行	長野	E		2,565.5
2	植木 和広	神奈川	U		2,326.0
3	布居 寛幸	JPCA	E	P	1,546.0
4	奥平 充男	京都	E	m	1,219.2
5	大崎 飛雄馬	愛媛	E		1,125.2
6	塩原 正長	広島	E	m	1,074.2
7	三宅 裕武	三重	U		918.0
8	金子 貴志	JPCA	E	P	840.0
9	明田 春喜	北海道	U		773.5
10	青沼 寿	宮城	U		742.0

男子エリート・個人追抜競走

IP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	黒木 裕介	宮崎	U		2,730.0
2	坂口 博	愛知	E		2,422.0
3	伊藤 太一	山梨	U		1,949.5
4	飯島 規之	JPCA	E	P	840.0
5	吉井 功治	東京	E	m	804.2
6	鳥生 知八	JPCA	E	P	672.0
7	浦門 義人	兵庫	U		667.0
8	行成 秀人	香川	E		602.0
9	岡崎 和也	JPCA	E	P	583.5
10	諸橋 愛	JPCA	E	P	546.0

男子エリート・ポイントレース

PR	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	吉井 功治	東京	E	m	2,555.5
2	西谷 泰治	広島	U		1,691.0
3	坂口 博	愛知	E		1,422.6
4	三上 広	青森	U		1,358.2
5	福島 晋一	JPCA	E	P	1,000.0
6	岡部 英人	富山	E		963.8
7	大塚 英伸	JPCA	E	P	926.0
8	清水 都貴	鹿児島	U		919.5
9	楠本 正昭	愛知	E		872.0
10	内藤 宣彦	JPCA	E	P	840.0

男子エリート・4000m速度競走

MS	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	楠本 正昭	愛知	E		670.0
2	盛 一大	茨城	U		583.6
3	岡田 淑行	新潟	U		435.5
4	伊藤 太一	山梨	U		424.6
5	鈴木 信也	富山	E		335.0
6	三好 陽一	愛媛	U		187.6
7	宮川 拓也	滋賀	U		170.0
8	有賀 義文	埼玉	E	m	136.0
8	浅野 英明	大阪	U		136.0
10	綾部 勇成	神奈川	U		134.0

男子ジュニア・スプリント

SP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	石橋慎太郎	静岡	J	s	2,335.0
2	永井 清史	岐阜	J		1,770.0
3	青木 亮太	群馬	J		1,724.0
4	北津留 翼	福岡	J	u	1,015.5
5	齋藤 友幸	静岡	J		993.6
6	屋良 朝春	沖縄	J		601.0
7	前田 義和	鹿児島	J		459.2
8	渡部 幸訓	福島	J		383.8
9	鷹木 官玄	岩手	J		376.0
10	荻原 尚人	宮城	J		345.0

女子・タイムトライアル

TT	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	中尾 友美	奈良	U		2,886.0
2	太刀川麻也	茨城	U		2,540.0
3	篠崎 新純	千葉	J		2,247.0
4	大森 恵	北海道	J		1,927.0
5	遠藤 友子	大分	J		1,545.2
6	仁藤ひろみ	静岡	U		852.2
7	野坂 尚由	愛知	U		841.2
8	小野山恵美	愛媛	E		772.0
9	斎藤 綾	秋田	U		723.5
10	村中恵美子	東京	E		584.3

男子エリート・ケイリン

KE	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	塩原 正長	広島	E	m	2,936.0
2	吉田 康則	岡山	E	m	2,544.0
3	石丸 健次	千葉	E	m	1,541.7
4	小野 旭裕	兵庫	U		1,210.0
5	松本 陽介	群馬	U		1,174.0
6	山口 裕之	山形	U		964.0
7	檜崎 雅也	宮崎	U		856.0
8	篠原 忍	群馬	U		772.0
9	松村 友和	大阪	U		583.5
10	松井 健	滋賀	U		413.0

男子ジュニア・個人追抜競走

IP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	臼井 昌巨	岐阜	J		1,210.0
2	明珍 周兵	福島	J		861.5
3	高島 豪	埼玉	J		752.0
4	吉田 公樹	青森	J		376.0
5	小岩 大介	大分	J		250.0
6	佐藤 友和	岩手	J	s	235.2
7	糸賀 賢司	福島	J		190.0
8	辻 龍一	大阪	J		179.6
9	熊谷 薫	福島	J	u	178.6
10	緒方 剛	埼玉	J		166.2

女子・スプリント

SP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	中尾 友美	奈良	U		2,486.0
2	遠藤 友子	大分	J		2,142.0
3	太刀川麻也	茨城	U		1,840.0
4	大森 恵	北海道	J		1,245.0
5	藤原亜衣里	新潟	U		951.2
6	野坂 尚由	愛知	U		769.0
7	篠崎 新純	千葉	J		719.2
8	大塚 恵美	大分	U		623.5
9	兼子 明子	鹿児島	E		420.2
10	遠山 恵	岩手	U		413.5

男子プロ・ケイリン

KE	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	内林 久徳	JPCA	E	P	1,490.0
2	市田佳寿浩	JPCA	E	P	672.0
3	前田 拓也	JPCA	E	P	546.0
4	西川 親幸	JPCA	E	P	519.2
5	手島 慶介	JPCA	E	P	420.0
6	會田 正一	JPCA	E	P	235.2
7	池尻 浩一	JPCA	E	P	168.0
8	横田 努	JPCA	E	P	160.0
9	豊岡 弘	JPCA	E	P	130.0
10	一丸 安貴	JPCA	E	P	126.0

男子ジュニア・ポイントレース

PR	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	片山 智晴	岡山	J		1,333.0
2	高島 豪	埼玉	J		1,271.0
3	池田 丈志	奈良	J		1,000.0
4	廣瀬 勝光	群馬	J		770.6
5	鷲田 佳史	福井	J		682.0
6	親川 泰典	岩手	J		616.0
7	小岩 大介	大分	J		560.5
8	柴田 祐也	岐阜	J		517.0
9	身崎 琢磨	宮城	J	u	456.7
10	別府 史之	神奈川	J		400.0

女子・個人追抜競走

IP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	木村 春恵	青森	U		2,730.0
2	斎藤 綾	秋田	U		2,234.0
3	杉村 久美	岩手	E		2,010.0
4	中村 珠藻	奈良	U		1,666.0
5	村中恵美子	東京	E		991.2
6	小野山恵美	愛媛	E		751.5
7	松永 舞美	香川	J		740.0
8	許斐真由子	鹿児島	U		708.2
9	大塚 恵美	大分	U		693.5
10	小谷 翠	愛知	E		615.0

男子ジュニア・タイムトライアル

TT	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	西村 行貴	熊本	J		1,393.2
2	臼井 昌巨	岐阜	J		1,260.0
3	屋良 朝春	沖縄	J		1,072.0
4	永井 清史	岐阜	J		1,040.0
5	中田 博之	富山	J		920.0
6	井上 雄三	埼玉	J	s	690.0
7	橋本 強	愛媛	J		648.4
8	中山 健	新潟	J		515.6
9	今泉 薫	群馬	J		513.0
10	福田 正人	埼玉	J		486.5

男子ジュニア・4000m速度競走

MS	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	鈴木 栄吉	大分	J		540.0
2	糸賀 賢司	福島	J		470.0
3	吉田 公樹	青森	J		432.0
4	三澤 康人	宮城	J	u	413.5
5	西村 行貴	熊本	J		406.0
6	田中 誠	福岡	J		376.0
7	望月 純	静岡	J		351.0
8	緒方 剛	埼玉	J		235.0
9	武田 光央	秋田	J		205.2
10	柴田 大全	埼玉	J		178.6

女子・ポイントレース

PR	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	松永 舞美	香川	J		2,120.0
2	森本 朱美	鳥取	E		1,722.0
3	杉村 久美	岩手	E		1,709.2
4	木村 春恵	青森	U		1,490.0
5	斎藤 綾	秋田	U		1,465.2
6	藤原亜衣里	新潟	U		1,297.5
7	大塚 恵美	大分	U		1,033.2
8	中村 珠藻	奈良	U		960.2
9	唐見実世子	石川	E		722.0
10	中尾 友美	奈良	U		712.0

.....
 ・ エリート: E(プロ:EP, マスター:Em), アンダー23: U、ジュニア: J(15才:Ju, 18才で1~3月生:Js) ・

対象大会: 10月中旬まで

日韓親善学生自転車交歓競技大会



10月29日13時55分発大韓航空にて成田を出発。目的地釜山までは2時間ちょっとの空の旅。国内と何らかわりのない移動時間である。しかしながら私には、少々不安材料があった。それは韓国においては反日感情が高まっており、各競技団体は日韓戦を取りやめていると耳にしていたからだ。オリンピックをはじめ、スポーツ選手が政治活動により参加出来なくなることが往々にしてあるが、選手にとっては耐え難い問題でもあろう。このような中で釜山空港からバスで昌原競輪場へ移動した。到着したのは、午後7時近くで辺りはすっかり日が落ちていた。この後、私の胸のつかえが、すーっと取れる事になるのである。韓国選手団が宿舎で出迎えをしてくれ、更に自転車、荷物の運搬を積極的にしてくれたのだ。それはまさに「熱烈歓迎」そのものであった。その後、和やかに日韓両国の選手団で夕食会が催され、選手達は身振り手振りでコミュニケーションを取り合うようになった。

30日、昌原競輪場にて初練習。室内333.3mバンク。選手の感想はとても走りやすいバンクであるとの事だ。午後の練習においても調子が良く、団抜では30秒前半は出ると予測された(高校生、大学生共)。夜はインターナショナルホテルにて、盛大に歓迎レセプションを開催して頂いた。

31日、試合当日。開会式終了後競技が開始された。男子は一日で200m八口ン、スプリント、1kmTT、3kmIP、4kmIP、エリミネーション、3km速度競走、ケイリン、4kmTPそして最後にポイントレースが行われた。女子は200m八口ン、スプリント、2kmIP、500mTT、3kmTP、最後にポイントレース。このようなスケジュールでレースが消化された。男子では最低でも一人5種目出走しなくてはならず、TPでは集中力、体力共

売り切れ状態で思ような走りができなかった。ケイリンでは韓国選手が必要以上の競走妨害で、監督、選手団の雰囲気が一気に悪化してしまっ

た。その後、選手及び関係各位が謝罪に訪れた。落車せずに済んだのが不思議なくらいであった。自転車を降りるととても親近感のある韓国選手団であるが、一度自転車にまたがると、いかなる手段をつかっても勝つという意気込みが感じられた(善し悪しは別として)。

1日、試合も終わり、選手達から安堵の表情がこぼれている。この日は、慶州観光と釜山での買い物ツアーで、夕食は、ダイウーホテルにおいて再三の歓迎レセプションを開催して頂いた。最後まで熱烈に歓迎してくれているのが肌で感じられた。

終わりにあたり、今後日韓親善を続けていく上で考えなくてはならない事は、まずスケジュールの改善、故意による危険走行の絶無が上げられるのではないかと思われる。

2日、全員無事帰国。(小松 久勝)

[競技結果]

男子大学生1kmタイムトライアル

1	Jeoung Yong-Jae	KOR	1:08.197
2	篠原 忍	JPN	1:08.780
3	Yang Hee-Chun	KOR	1:10.326
4	黒木 祐介	JPN	1:10.400

男子高校生1kmタイムトライアル

1	Noh Tae-Kyung	KOR	1:08.141
2	屋良 朝春	JPN	1:08.500
3	臼井 昌巨	JPN	1:08.869
4	Kim Young-Man	KOR	1:09.783

女子500mタイムトライアル

1	Ku Sung-Eun	KOR	38.253
2	遠藤 友子	JPN	38.447
3	Lee Min-Hye	KOR	38.800
4	大森 恵	JPN	40.345

男子大学生リット

1	Yang Hee-Chun	KOR	
2	植木 和広	JPN	
3	篠原 忍	JPN	
4	Jeoung Yong-Jae	KOR	

男子高校生リット

1	屋良 朝春	JPN	
2	Noh Tae-Kyung	KOR	
3	Kim Young-Man	KOR	
4	臼井 昌巨	JPN	

女子リット

1	遠藤 友子	JPN	
2	Lee Min-Hye	KOR	
3	Ku Sung-Eun	KOR	
4	中尾 友美	JPN	

男子高校生3km速度競走

1	Kim Young-Man	KOR	
2	臼井 昌巨	JPN	
3	Kim Jac-Kook	KOR	

男子大学生4km個人追抜

1	三上 広	JPN	4:51.940
2	Lim Byung-Hyun	KOR	4:54.060
3	Oh Dae-Hwan	KOR	5:03.000
4	黒木 祐介	JPN	5:11.534

男子高校生3km個人追抜

1	臼井 昌巨	JPN	3:37.407
2	Park Seong-Baick	KOR	3:39.058
3	Kim Jae-Kook	KOR	3:40.380
4	糸賀 賢司	JPN	3:41.010

女子2km個人追抜

1	Han Song-Hee	KOR	2:38.763
2	松永 舞美	JPN	2:43.262
3	Seo Ji-Hwa	KOR	2:44.637
4	木村 春江	JPN	2:49.085

男子大学生エリミネーション

1	三上 広	JPN	
2	Kim Won-Jin	KOR	
3	山口 裕之	JPN	
7	植木 和広	JPN	
8	黒木 祐介	JPN	
10	篠原 忍	JPN	

男子高校生エリミネーション

1	Kim Jae-Kook	KOR	
2	Choi Min-Ho	KOR	
3	糸賀 賢司	JPN	
5	屋良 朝春	JPN	
8	片山 智晴	JPN	
9	臼井 昌巨	JPN	

女子ポイントレース(10km)

1	Han Song-Hee	KOR	30 p
2	Ku Sung-Eun	KOR	28 p
3	木村 春江	JPN	17 p
6	松永 舞美	JPN	8 p
6	中尾 友美	JPN	8 p
8	遠藤 友子	JPN	3 p
9	大森 恵	JPN	2 p

男子ポイントレース(24km)

1	Oh Dae-Hwan	KOR	23 p
2	臼井 昌巨	JPN	18 p
3	三上 広	JPN	(-1)19 p

男子大学生4km団体追抜

1	KOR	4:36.264
2	JPN	4:41.571

男子高校生4km団体追抜

1	KOR	4:32.879
2	JPN	4:39.416

女子3km団体追抜

1	KOR	追抜勝
2	JPN	OVT

2001年JCF MTB ジャパンシリーズが閉幕

今年度のジャパンシリーズの最終戦が9月22日から23日に石川県瀬女高原にて開催された。4月21日に熊本県小国町XC第1戦を皮切りにXC10戦、DH7戦が行なわれた。その結果2001年ジャパンシリーズのチャンピオンにDH男子は内嶋 亮、女子は末政実緒、XC男子は山口孝徳、女子は南部博子に決定した。



《XC男子》

R.	氏名	所属	チーム名	Class	Total
1	山口 孝徳	長野	TEAM CWS	Elite	595
2	竹谷 賢二	千葉	Team SPECIALIZED	Master	595
3	鈴木 雷太	長野	ブリヂストンアカ	Elite	575
4	色川 浩樹	福島	GIANT JAPAN	Under23	490
5	宇田川聡仁	静岡	ブリヂストンアカ	Elite	485
6	松本 駿	長野	GT JAPAN	Elite	475
7	戸津井俊介	埼玉	スポット	Elite	475
8	ビシトワガッ	大阪	TREK	Master	470
9	栄田 富夫	北海道	SCOTT	Elite	465
10	深谷 幸彦	愛知	NEWS-NCFR	Master	450
11	野口 忍	長野	SCOTT	Elite	448
12	中山誠一郎	東京	CWS	Elite	425
13	西田 和弥	長野	BRIKO ROCKYMOUNTAIN	Master	360
14	小笠原崇裕	長野	サイクルインド	Under23	355
15	白石 真悟	大阪	大阪大学MRTA	Under23	327
16	リャド・ナツ	長野	mx/mongoose	Master	325
17	中村 豊	東京	XARU	Elite	305
18	堂城 賢	北海道	GARY FISHER	Elite	302
19	菅間 圭介	宮城	Team奥州	Elite	294
20	笹部 勝	大阪	アオト・cannondale	Elite	280
21	三上 和志	埼玉	増子自転車店	Elite	263
22	佐藤 貴巳	大分	Roppo, Jamis Q-MAX	Elite	260
23	後藤 清作	長野	GIANT JAPAN	Elite	250
24	江下健太郎	愛知	愛三工業XARU	Elite	250
25	広瀬 允	千葉	TEAM-CWS	Junior	245
26	太田 直秀	長野	ARAI・MURACA	Master	244
27	佐々木 正	千葉	YETIマッパ	Master	215
28	辻 義人	大阪	TeamMX	Elite	195
29	橋田淳一郎	東京	TEAM YUKIRIN	Master	193
30	鈴木 良則	神奈川	XARU/T-Serv	Elite	191

《DH男子》

R.	氏名	所属	チーム名	Class	Total
1	内嶋 亮	東京	A&F SANTA CRUZ	Elite	500
2	安達 靖	兵庫	Team TMX	Elite	445
3	竹本 将史	埼玉	ANCHOR	Elite	425
4	丸山 弘起	長野	TEAM SCOTT	Elite	415
5	塚本 岳	埼玉	MX/MONGOOSE	Master	385
6	鍋島 健一	福岡	ブリヂストンアカ	Elite	370
7	岩瀬 信彦	神奈川	Team GT Japan	Master	355
8	加納慎一郎	山梨	TeamGT Japan-LAZER	Elite	345
9	高橋 唯之	福島	MX/SPEEDGAME	Junior	323
10	河合 暁延	愛知	Mom&Pop'S/カトリナツ	Elite	320
11	和田 良平	東京	Team Cristal	Elite	315
12	三宅 和之	埼玉	SINTESIマッパ	Elite	281
13	河合 礼紀	三重	カトリナツ	Elite	260
14	大島 礼治	兵庫	GIANT JAPAN	Elite	255
15	丸山由紀夫	愛知	MOM&POP'S	Elite	245
16	多田 引之	大阪	SCHWINN	Elite	245
17	坂口 静佳	静岡	チームスポット	Master	245
18	向原 健司	大阪	TeamKUWAHARA	Junior	222
19	猪俣 康一	神奈川	HAYES INTENS	Elite	222
20	東 裕一郎	石川	M-2FRS	Elite	203
21	寺本 俊介	神奈川	Team CHEETA Japan	Elite	201
22	金子 大作	北海道	Global RacingTeam	Elite	200
23	栗瀬 裕太	大阪	TeamTREK	Elite	200
24	鈴木 健二	静岡	MXマッパ	Master	196
25	今田 大三	愛知	MPR	Master	193
26	朝日 昌彦	埼玉	Team TMX	Elite	180
27	羽生 哲裕	埼玉	ir-GT.LAZER	Elite	176
28	渡邊 浩	新潟	SPECIALIZED	Master	172
29	金子 真吾	北海道	カムバク	Elite	171
30	柳原 康弘	愛知	www.yans.com	Elite	162

《XC女子》

R.	氏名	所属	チーム名	Class	Total
1	南部 博子	長野	TREK Japan	Master	625
2	中込由香里	神奈川	team SY-Nak	Master	580
3	高橋いづみ	東京	team SY-Nak	Master	555
4	中川 裕代	長野	SCHWINN(JAPAN)	Elite	530
5	田中 裕子	長野		Elite	520
6	松本こずえ	宮城	SCOTTみちのく	Master	515
7	佐藤由布子	神奈川	team SY-Nak	Master	510
8	森田 正美	神奈川	ARAI MURACA	Elite	485
9	深井 薫	大阪	FUNRIDE GANG	Master	420
10	窪田 二葉	長野	BRIKO ROCKYMOUNTAIN	Elite	365

《DH女子》

R.	氏名	所属	チーム名	Class	Total
1	末政 実緒	兵庫	Team GT Japan	Junior	500
2	渡辺キャリー	長野	Mom&Pops	Master	440
3	池田 恭子	東京	FFC/HOT CHILI	Master	410
4	猪俣 浩子	神奈川	KOOWHO CREDIT Racing	Elite	400
5	鴨下 美穂	神奈川	DD BIKES	Youth	375
6	久家 麻妃	岐阜	DD.BIKES	Master	375
7	藤中 治子	京都	タスクワ グルハ	Master	375
8	杉山 美佐	静岡	DD BIKES	Master	365
9	増田 まみ	埼玉	MX/HARO	Elite	335
10	福本 弘佳	兵庫	RingoRoadRacing	Elite	320

日韓親善学生自転車交歓競技大会代表選手団の派遣について

大会名	第7回日韓親善学生自転車交歓競技大会		
開催場所	大韓民国昌原市(昌原ペロドローム・室内333m)		
開催期間	平成13年10月31日		
派遣期日	平成13年10月29日～11月2日		
代表選手団			
団長	久和 正孝(連盟理事・多々良学園高校)		
大学監督	三妙 敬治(法政大学) コーチ 古川 利勝(中央大学)		
高校監督	山崎 好弘(連盟強化委員・岐南工業高校) コーチ 小松 久勝(平工業高校)		
選手	植木 和広(神奈川・中央大学)・篠原 忍(群馬・中央大学)・三上 広(青森・法政大学)		
	山口 裕之(山形・法政大学)・黒木 祐介(宮崎・法政大学)・中尾 友美(奈良・筑波大学)		
	木村 春江(青森・八戸大学)・屋良 朝春(沖縄・北中城高校)・片山 智晴(岡山・岡山工業高校)		
	糸賀 賢司(福島・平工業高校)・鷹城 官玄(岩手・紫波高校)・臼井 昌巨(岐阜・岐南工業高校)		
	松永 舞美(香川・高松工芸高校)・遠藤 友子(大分・別府商業高校)・大森 恵(北海道・函館大谷高校)		

平成13年度(財)日本体育協会公認自転車競技
C級コーチ養成専門科目講習会開催される

平成13年11月2日～5日の日程で、C級コーチ養成専門科目前期講習会が、静岡県の日本サイクルスポーツセンター、サイテル及び日本競輪学校で開催された。

今回開催された前期講習会では、全国より25名(男性23名・女性2名)が受講した。一部天候に恵まれなかったが、日本競輪学校の協力により実技・指導実習の30時間の講義が行なわれ、充実した講習となった。

- <受講者名>内田 彰子・森田 弘子・伊藤 洋史・中村 真司・狩野 良太
浅田 顕・印南 剛志・塩沢 博・仲澤 俊・大石 一夫・松村 拓紀
富山 健一・久保 芳久・河合 康晴・小林 一弘・山田 克彦・飯田 義広
小暮 征宏・山本 博章・山本 輝幸・阿部 正義・高野 信夫・宮地 一夫
渡邊 三郎・鷺田 善一



WCX(ワールドサイクリングセンター)開校に日本から2名が入学

IOCのオリンピックソリダリティーの支援を受けワールドサイクリングセンター(WCX)が2002年1月にスイス・エーグルにオープンする。そのセンターに日本から、大森慶一(北海道・20歳:男子シニア1km日本記録保持者)、永井清史(岐阜第一高校・18歳:男子ジュニア200mフライングスタート日本記録保持者)の2名が入学することとなった。

WCXでは、17歳から23歳までのロード、トラック、MTBそれぞれ若手有望選手12名、計36名を受け入れ、2004年アテネオリンピックで優秀な成績を得ることを目標とし、10ヶ月間のトレーニングが計画されている。ただし、2002年は男女のトラック選手を対象として強化することになっている。来春に日本から入学するこの2名の選手の成長に、大いに期待したい。

なお、世界5大陸に設置が予定されるコンチネンタルセンターのアジア大陸サブセンターは、日本と中国・北京に設置が決まり、日本においては2002年4月に静岡県修善寺町の日本サイクルスポーツセンターにオープンする予定である。

第7回全日本シクロクロス選手権
は長野県佐久市で開催

期日:平成14年1月13日(日)
場所:長野県佐久市
長野牧場特設コース

詳細は所属の都道府県車連へ
お問合せください。

第2回チャレンジ・ザ・オリンピック

10月21日(日)静岡県・日本サイクルスポーツセンター250mトラックにて第2回のチャレンジ・ザ・オリンピックが開催された。第1回の記録会では、驚異的なタイムで彗星のごとく現れた長塚智広選手(シドニーオリンピック出場)の記憶が新しい。今回は23名が出場したが、強化指定選手等の基準タイムを更新した者はいなかった。

[記録上位者]

250mタイムトライアル		200mフライングタイムトライアル	
1位 井上 昌己	18秒621	1位 栗田 雅也	10秒750
2位 伊藤 世哉	18秒727	2位 海老根恵太	10秒931
3位 松岡 健介	18秒923	3位 井上 昌己	11秒097
1kmタイムトライアル		<基準タイム>	
1位 渡辺 十夢	1分06秒273	200m	: 10秒500未満
2位 海老根恵太	1分09秒579	250m	: 18秒200未満
3位 引地 正人	1分10秒290	1km	: 1分05秒000未満



TITANIUM Technology

より高度な剛性バランスを追求して、
Tiコブラシェイプ、さらに進化。

比重は鉄の約1/2、強度もアルミ・鉄を圧倒し、弾性にも優れるチタン。この理想の素材特性をフルに活かして開発したのが、Tiコブラシェイプだ。ヘッド側を縦楕円に、BB側を横楕円に形成。さらにティアドロップ断面とトリプルバテッド加工を採用することで、軽さ・衝撃吸収性・高剛性を徹底追求した。そして今シーズンは、ヘッド回りの剛性を高める“ゼロスタック”ヘッドシステムを採用。縦横の剛性をいっそう高次元でバランスさせ、よりニアな操縦性を実現した。



<http://www.panabyc.co.jp>

パナソニック・オーダーシステムカタログをご希望の方は、200円切手を同封の上、下記まで
松下電器産業株式会社 自転車事業部 〒582-8501 大阪府柏原市片山町13-13 TEL.0729-77-1601

Panasonic

TiCOBRASHAPE
TITANIUM SUPER CROSS OVAL
TRIPLE BUTTED DOWN TUBE



OCT 06 7.9 写真の商品はOCT 06 D
Kg (DURA-ACE)です。

WEIGHT OCT 06D: 530SIZE チューブ、ノーマルオイル仕様

355,000円～(税別)

※パーツ・カラー選択により価格は異なります。
フレーム単体販売

FCT 06

基本標準価格(税別) 170,000円～

WEIGHT 1.9kg (フレーム・フォーク・ヘッドパーツは630サイズ)



競技大会 結果

大会名・チーム名等については略して記載

2001全日本学生個人ロードタイムトライアル (6/24 秋田・大湯村ツラースポーツライン)

女子オープン(15km)

1	中村 珠藻	順天堂大学	23:05.774
2	斉藤 綾	順天堂大学	23:07.888
3	許斐真由子	鹿屋体育大学	23:47.373
4	谷村祐美子	北大和高校	24:00.950
5	栗原 松江	坂戸高校	25:08.349
6	兼子 明子	鹿屋体育大学	25:08.959
7	横田 景子	早稲田大学	25:24.909
8	小高セツコ		26:03.882
9	川添 綾子	関西大学	26:05.653
10	遠山 恵	順天堂大学	26:08.318

第7回チャレンジサイクリストレース大湯大会 (9/23 秋田・大湯村ツラースポーツライン)

男子U23(93.30km)

1	伊藤 博人	秋田 ヨーワR.	2:21:13.750
2	千葉 浩	岩手 ックス	2:21:28.160
3	高橋 栄光	岩手 和	2:21:28.410
4	高山 能之	山形 和	2:21:29.200
5	八重樫健治	岩手 チェロ	2:21:29.450
6	田中館 拓	岩手	2:21:29.850
7	細矢 親	秋田 YUKIRIN	2:21:30.070
8	緒方 千治	広島 三菱化学物流	2:21:30.340
9	新沼 光	埼玉 CWS	2:21:30.600
10	石田 卓也	山形 味の福島	2:21:30.870

ジュニア-1(93.30km)

1	畑山 大樹	岩手 紫波高校	2:28:45.990
2	寺田 俊	秋田 大曲農高	2:28:46.470
3	仲村 淳	秋田 大曲農高	2:28:46.910
4	植村 翔太	秋田 六郷高校	2:28:47.590
5	関根 友彦	福島 岩瀬農高	2:28:47.820
6	阿部 翼	山形 山形電波	2:28:48.100
7	佐藤 勇気	岩手 紫波高校	2:28:48.430
8	熊谷 匡恭	福島 岩瀬農高	2:28:48.710
9	小笠原幸雄	岩手 紫波高校	2:28:49.110
10	高橋 康彦	山形 山形電波	2:28:49.450

ジュニア-2(93.30km)

1	立里 匡道	山形 山形電波	2:25:24.090
2	小林 要	秋田 能代西高	2:25:25.260
3	熊谷 薫	福島 岩瀬農高	2:25:25.580
4	湯坐 純	福島 東白川農	2:25:25.880
5	佐藤 幸治	秋田 六郷高校	2:26:18.610
6	根本 哲史	秋田 大曲農高	2:26:19.050
7	滝田 真也	福島 岩瀬農高	2:26:19.340
8	門脇 直人	秋田 大曲農高	2:26:19.680
9	高橋 公大	秋田 六郷高校	2:26:20.000
10	遠山 博俊	岩手 紫波高校	2:26:20.310

女子(31.10km)

1	杉村 久美	岩手 和	50:26.670
2	舟橋 豊子	東京 東京都	56:43.650

3	須藤 朋美	福島 岩瀬農高	56:43.910
4	平中あゆ美	岩手 伊保内高	56:44.200
5	横尾 裕子	山形 山形電波	56:45.360
6	小高セツコ	東京 埼玉県	1:08:21.760

実業団いわき(9/30 福島・いわき)

BR-1(50.05km)

1	飯島 誠	JPCA スズバ和	1:15:27.51
2	岡崎 和也	JPCA 杉ノ木	1:15:27.67
3	今西 尚志	京都 シルベ	1:15:27.90
4	鈴木 太地	神奈川 イキッ アツ	1:15:28.22
5	岡田 哲也	JPCA プリズ	1:15:28.36
6	田中 泰治	北海道 スズバ和	1:15:28.49
7	広瀬 敏	石川 日本舗道	1:15:28.65
8	品川 真寛	京都 CLUB ANGLE	1:15:29.06
9	藤野 智一	JPCA プリズ	1:15:29.22
10	新保 光起	JPCA 愛三工業	1:15:29.26

BR-1団体成績

1	スズバ和	飯島・田中・沼田	26 p
2	杉ノ木	岡崎・三浦・柿沼	34 p
3	シルベ	今西・鈴木・山本	37 p

BR-2(42.9km)

1	高橋 栄光	岩手 スズバ和	1:09:15.93
2	五島 則夫	神奈川 チムラックス	1:09:16.25
3	山田 隆史	東京 スズバ和	1:09:16.36
4	高野 淳	神奈川 イキッ アツ	1:09:16.54
5	杉本 大輔	埼玉 リジビアン	1:09:16.62
6	鬼形 博之	群馬 ハーレー	1:09:16.67
7	矢内 雄一	宮城 チムラックス	1:09:16.76
8	内山 靖樹	大阪 ミヤノ	1:09:17.05
9	佐野 友哉	大阪 イキッ アツ	1:09:17.52
10	野中 真吾	神奈川 チムラックス	1:09:17.62

BR-2団体成績

1	スズバ和	高橋・山田	4 p
2	チムラックス	五島・野中	12 p
3	イキッ アツ	厚木・プリズ	13 p

BR-3(35.75km)

1	山下 博幸	埼玉 リジビアン	58:01.79
2	水澤 耕一	東京 スズバ和	58:01.84
3	古川 寛	福島 チムラックス	58:02.40
4	山崎 広	東京 Blanche	58:02.44
5	郡山 雅仁	宮城 ハーレー	58:02.73
6	蓮見 尚希	埼玉 ヴィセガ	58:02.91
7	長谷川嘉男	東京 ヴィセガ	58:03.34
8	山口 隆彦	岐阜 フォット RT	58:03.67
9	大山 譲	千葉 BML	58:03.68
10	安原 興志	東京 たかだ	58:03.71

第37回西日本学生自転車競技新人戦 (9/30 滋賀・大津競輪場)

男子

1	小堺 浩二	京都産業大学
2	廣瀬 健一	同志社大学
3	濱田 隆行	京都大学

1kmタイムトライアル

1	的場 俊輔	桃山学院大学	1:16.34
2	井川 智之	同志社大学	1:18.98
3	井尻 雄大	同志社大学	1:20.77
4	西川 丈晴	龍谷大学	1:22.85
5	小塚 寛也	大阪経済大学	1:25.66

4km個人追抜

1	清水 良行	京都産業大学	5:00.67
2	中里 聡史	中京大学	5:09.30

3	鈴木 昭博	中京大学	5:05.29
4	河野 通明	京都産業大学	5:22.49
5	矢野 泰弘	大阪経済大学	5:16.51
6	平川 浩康	北陸大学	5:27.59

ポイントレース(30km)

1	岩本竜太郎	京都産業大学	42 p
2	森 真博	立命館大学	34 p
3	稲田 佳弘	名古屋産業大学	28 p
4	佐々木準一	北陸大学	26 p
5	三浦 勇一	中京大学	17 p
6	土持 隼人	名古屋産業大学	14 p

ケリン

1	山本 啓太	中京大学
2	吉田 真也	関西大学
3	湊 直晃	北陸大学
4	丸山 紀州	桃山学院大学
5	吉田 耕造	同志社大学
6	中田 哲郎	大阪工業大学

平内カップ in YOGOSHIYAMA (9/30 青森・夜越山峠・場)

DH男子(2km)

1	相坂信二郎	東京 SPECIALIZED	2:14.95
2	関 誠利	宮城 SEKIみちのく	2:15.72
3	黒川陽二郎	石川 FRS.CSP.	2:18.13
4	川上 史郎	東京 風魔プラス1	2:18.24
5	寿 教安	岩手 EXTREME	2:19.45
6	三瓶 敏彦	岩手 GT/みちのく	2:19.66
7	高橋 大	北海道 ねこ北	2:19.98
8	小川原圭太	埼玉 CHEETA J.	2:20.34
9	替地 理揮	神奈川	2:20.48
10	三浦 政実	秋田 SPECIALIZED	2:21.55

DH女子(2km)

1	寿 弥生	岩手 EXTREME	2:42.37
---	------	------------	---------

XC男子(31.8km)

1	影山 善明	茨城 XARU	1:24:06.79
2	菅間 圭介	宮城 奥州	1:24:51.30
3	山本 和弘	北海道 KBC	1:26:38.22
4	鈴木 博信	宮城	1:27:56.16
5	宅間 健一	京都 CCじゃがいも	1:29:01.18
6	佐々木隆成	秋田 SCOTT S.	1:29:15.33
7	角田 英朗	東京	1:29:25.31
8	河原 隆博	宮城 Team奥州	1:30:54.07
9	阿部 泰洋	北海 みしよによ	1:30:54.67
10	水野 喜和	岩手 2001/1/1	1:31:22.95

XC女子(26.5km)

1	松本こずえ	宮城 SCOTT	1:29:30.02
---	-------	----------	------------



競輪補助事業

飯島規之が JOC特別強化指定選手Bに認定

飯島規之選手が、9月にベルギーで開催された2001年世界トラック選手権の男子ポイントレースで8位に入賞した結果、(財)日本オリンピック委員会(JOC)の強化指定制度により「特別強化指定選手B」に認定された。

なお、大森慶一選手も「特別強化指定選手H(ホープ)」に認定されている。

末政実緒選手が文部科学省「国際競技大会優秀者表彰」を受賞

10月25日「スポーツ功労者顕彰式及び国際競技大会優秀者表彰式」が東京都・霞が関にて関係者、報道関係者合わせて100名が集まるなか華々しく行なわれた。自転車関係では9月に行なわれたマウンテンバイク世界選手権ダウンヒル・ジュニア女子の部で優勝した末政実緒選手が「国際競技大会優秀者表彰」を受賞した。なお、末政選手はマウンテンバイクアジア選手権出場のため欠席となった。

ワールドチャンピオンジャージを着る末政



連盟の動き (10月～11月上旬)

- 10月 2日 シクリスムエコー編集会議
 3日 職員会議
 5日 世界選ロード日本選手団出発(帰国 10/16) 於:ポルトガル・リスボン
 ジャパンカップ実行委員会 於:宇都宮市
 8日 UCI理事会 於:ポルトガル・リスボン
 10日 ACC理事会 於:ポルトガル・リスボン
 11日 UCI総会 於:ポルトガル・リスボン
 20日 第3回強化委員会、第1回医科学部会・強化スタッフ部会合同会議 於:静岡県・修善寺
 21日 第2回チャレンジ・ザ・オリンピック 於:静岡県・日本CSC
 23日 2001年MTBアジア選手権日本選手団出発(帰国 29日) 於:韓国・茂朱
 31日 平成14年度公益補助事業ヒヤリング 於:日本自転車振興会・公益事業部
- 11月 1日 JOCコーチ講習会 於:東京都・国立スポーツ科学センター
 JOC選手強化委託事業の実地調査
 2日 C級コーチ養成専門科目前期講習会(～5日) 於:静岡県・日本CSC他
 3日 第2回競技運営委員会
 6日 職員会議
 8日 JOCアジア競技大会説明会 於:岸記念体育会館
 第2回普及委員会・第1回アンチ・ドーピング委員会

県車連住所変更のお知らせ

福島県自転車競技連盟

〒961-0102

福島県西白河郡中島村

大字滑津字平名塚17

(株)信也園内 田崎様

TEL: 0248-52-2022

FAX: 0248-52-2474

大阪府自転車競技連盟

〒535-0002

大阪府大阪市旭区大宮

1-5-22 吉井猛様方

TEL・FAX: 06-6953-9485

編集後記

多摩ニュータウンに住み始めて、20数年が経過した。当時は自然豊かな丘陵地帯を切り開き、次々と建設される高層住宅、国道並みの道路が四通八達、まさに都市計画に基づいた人工の未来都市が進行中であった。なだらかな起伏に富んだ広い道路がいたる所にあり、自動車の交通量も少なく、自転車のロード練習には絶好のロケーションであった。多くのアマチュアや競輪選手がロード練習をしている光景が随所で見られた。又、子供達も道路や公園で嬉々として自転車に興じていた。中野浩一氏が世界選プロスプリントで連勝を続けており、自転車競技の文化が根付くかに見えたが、開発が進むにつれ、ロード練習は滅多に見られなくなってしまった。田舎の筑波学園都市でも同様の結果を辿ってしまった。

生活に最も身近な道具でありながら、競技として人気を呼ばないことにもどかしさを感じてしまう。ヨーロッパの郊外は道路も広く、自動車の交通量も少なく年代を問わず、自転車を楽しんでいる人達が実に多い。自転車競技の発展には環境が大きな役割を担っているのではないと思われる。もちろん、競技の発展には環境のみならず、世界的なイベントの開催、国際舞台における自国選手の活躍、併せて広く一般にアピールする広報が欠かせない。

イベントとして、4年に1度のオリンピック、毎年開催される世界選、年に5回開催されるワールドカップ等数多くあり、今年から新たにケイリンの世界選手権(オープン・デ・ケイリン2001)も開催されることになった。11月15日、フランス・ボルドーで世界9カ国からトップレーサー18名を集めて行われる。これに我が国から5名の競輪選手が出場する。この号が刊行される時には、今大会における初の世界チャンピオンが生れていることになる。1987年、本田晴美選手(岡山)が世界選のケイリンで優勝して以来、残念ながら我が国からの優勝者は出ていない。日本で生れた種目だけに巻返しを期待したい。

広報の面も自転車競技がマスメディアに大きく採り上げられることは少ないが、情報通信技術(IT)の進歩により、インターネットを使って、文字・写真等の静止画像に止まらず、動画の情報発信まで可能になっている。

来たるべきブロードバンドの時代を迎えて、自らの情報発信により、競技や選手等に関する情報を広く伝えることが今までに増して重要になってくると思われる。

(佐藤)



シクリスムエコー No.82 2001年11月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/岩楯昭一

編集人/村田統司

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15 日本自転車会館内

TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508

URL <http://www.jcf.or.jp/>